

全国50,000人の“ボランティア救助員”の活動を支えます。



MRJ 公益社団法人 日本水難救済会
後援:国土交通省、海上保安庁、総務省消防庁、水産庁

募 金 の 方 法

口座振込みによる募金

郵便局

口座番号:00120-4-8400
加入者名:公益社団法人 日本水難救済会

銀 行

三井住友銀行日本橋東支店
口座番号:(普)7468319
加入者名:公益社団法人 日本水難救済会 青い羽根募金口

インターネット募金



クレジットカード



- ホームページから以下の方法で募金ができます。
- クレジットカードはMasterCard、VISA、JCB、AMEXがご利用できます。

●お問い合わせ先

☎0120-01-5587

募金フリーダイヤルで
お申し出くだされば、振込料無料の
専用郵便振替用紙をお送りします。



★ 会 員 ★ 募 集 ★

公益社団法人日本水難救済会では、本会の会員(2号正会員または賛助会員)となって、本会の事業を支援していただける方々を募集しております。

◆入会を希望される方へ

入会を希望される団体又は個人の方は、本会のホームページの「会員登録／お問い合わせ」又はファックスにて、住所、氏名など必要事項をご記入のうえ、本会にお申し込みください。



申込先:公益社団法人 日本水難救済会
ホームページ <https://www.mrj.or.jp/index.html>
TEL 03-3222-8066 FAX 03-3222-8067

公益社団法人日本水難救済会は、会員の皆様からの会費や青い羽根募金のほか、公益財団法人日本財団をはじめ、公益財団法人日本海事センター、海運・水産関係団体等の助成金、補助金をもって事業が運営されています。



公益社団法人 日本水難救済会

〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地 海事センタービル7階

TEL:03-3222-8066 FAX:03-3222-8067

<https://www.mrj.or.jp> E-mail v1161@mrj.or.jp

公式X [@Qsuke_MRJ](#)

令和7年度助成事業



マリンスキュー ジャーナル

Vol.118
2026年 1月号

MRJグラビア

令和7年度名誉総裁表彰式典 能登半島地震復興状況御視察

連載 **マリンスキュー紀行**
海の安全安心を支える
ボランティアたちの群像

山口県水難救済会 萩越ヶ浜救難所／防府市救難所

青い羽根募金活動レポート2025

水難事故を未然に防ぐために
水難救済思想の普及活動レポート

マリンスキューレポート

Part1 救難所NEWS

Part2 洋上救急NEWS

レスキュー41～

地方水難救済会の現状 シリーズ⑬



海の水難救済ボランティア
公益社団法人 日本水難救済会



名誉総裁 年頭挨拶



新年あけましておめでとうございます。

本年も、全国の救難所員の皆様が、
海上における、人命、船舶の救済に力を尽くし、
海上産業の発展と海上交通の安全確保に
寄与されますとともに、
国民の皆様から益々信頼され、
発展を遂げられますことを願っております。

令和8年1月1日
公益社団法人 日本水難救済会
名誉総裁 憲仁親王妃久子

年頭挨拶

令和8年の年頭にあたり、
謹んで新年のご挨拶を
申し上げます。

海上保安庁長官 瀬口 良夫



公益社団法人日本水難救済会は、明治22年11月の創設から、今年で137年目を迎えられることとなりました。

水難救済事業では、今日に至るまで約20万人の方々、4万隻以上の船舶を救助されるなど、多大な功績をあげられているところ、これら救助活動は、崇高な社会奉仕の精神のもと救助活動にご尽力される全国各地の救難所及び関係者の皆様方の献身的な取組によるものであり、心から感謝を申し上げます。

また、洋上救急事業では、昭和60年10月の運用開始から、今年で41年目を迎えられ、出動実績は累計1,017件を数えています。この洋上救急事業は、遙か沖合の洋上で活動される方々のみならず、そのご家族及び関係者に大きな安心感を与えるなど、社会からの高い評価を得るとともに、海運業・水産業の根幹を支えています。

これらの功績は、人命救助のために活動されている約5万人の救難所の皆様方、洋上において傷病者への緊急の医療活動にご協力をいただいている医療関係者の皆様方のご尽力をはじめ、日本水難救済会の事業の推進にご協力をいただいている数多くの関係者の方々の多大なるご支援の賜物であると考えており、海上の安全の確保を図ることを任務とする海上保安庁を代表し、心から敬意を表します。

さて、現在、海上保安庁では、一層の救助体制の強化の一環として、当庁が認知した海難事案の第一報を水難救済会の皆様をはじめとする救助ボランティアやその他の関係者の方々に速やかに通知をするとともに、関連船舶の位置や現場の写真といった救助に必要な各種情報をリアルタイムに共有することができる『官民連携救助アプリ』を開発しています。昨年までの実証試験では、日本全国の救難所の皆様方にご協力いただき、本年4月の運用開始に向け、より使いやすいものとなるように改良を重ねているところです。このアプリの活用により、これまで以上に多くの人命を救助するための体制や皆様方との連携がさらに強固になることを期待しています。

四方を海に囲まれた我が国において、より多くの命を救うためには、日本水難救済会及び地方水難救済会をはじめとする民間救助団体や協力医療機関の皆様方との連携をより一層強固なものとしていくことが重要であると改めて実感しております。

今後とも日本水難救済会の更なる発展のため、支援を継続していくとともに、海上における人命や財産の救助に万全を期す所存です。

最後になりますが、日本水難救済会の各種事業にご尽力されている皆様方のご健勝と更なるご発展を祈念いたしまして、私の新年の挨拶とさせていただきます。

年頭挨拶

令和8年の年頭にあたり
海上の安全と安心のために
皆様のご活躍を祈念申し上げます。

公益社団法人 日本水難救済会

会長 相原 力



令和8年の年頭にあたり、全国の地方水難救済会をはじめ、各地の救難所・支所の救難所員とその活動を支えておられるご家族の皆様、また洋上救急や青い羽根募金活動に携わっていただいている皆様に、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

全国の救難所員等の皆様におかれましては、昼夜を問わず海難救助にご尽力いただき、心から敬意を表します。

海を現場とする海難救助は荒天下や夜間での活動を余儀なくされ、救助にあたる救難所員の方々は常に危険に晒されることも多く、そのご苦労は大変なものと存じます。

日本水難救済会は、明治22年に大日本帝国水難救済会として創設以来、本年で137年を迎えることとなります。

この間、救難所員の皆様の活躍により、令和7年度上半期までに全国で累計199,521人の尊い人命を救助してきた実績を誇っております。

昨年は9月末までに全国で発生した海難において、236名、105隻の船舶を救助し、沿岸における海難救助に大きな成果を上げることができました。

また、令和6年元旦に発生した能登半島地震により被災した救難所等につきましては、昨年7月1日に名誉総裁高円宮妃殿下及び承子女王殿下が石川県七尾市（能登水難救済会）及び輪島市等をご訪問になり、復興状況を御視察されました。

被災地では救援・復旧に尽力した能登水難救済会の救難所員や関係者を労われるとともに、現地の被災状況及び復興の進捗をご確認いただきました。

被災した救難所等も一定の復興が進んだ救難所もある一方、依然として厳しい状況にある地域もございます。

当会としても今後とも可能な限りの支援を継続してまいります。

洋上救急につきましては、海上を活動の場とする船員やそのご家族に安心をもたらす事業として、関係の皆様から高く評価されており、昨年10月には制度創設から40周年を迎えました。

令和7年度上半期には11件に出動し、制度創設以来の累計出動件数は1,017件となりました。

厳しい環境の中で全力を尽くして対応いただいている医療関係者をはじめ、関係の皆様に改めて御礼申し上げますとともに、今後とも一層の充実を図ってまいり所存でございますので、更なるご支援をお願い申し上げます。

青い羽根募金につきましても、昨年は海上保安庁をはじめ国土交通省、消防庁、水産庁、防衛省などの国の機関のほか、各種企業や海洋少年団などの協力を得て、街頭募金活動や青い羽根募金支援自動販売機の設置拡大に取り組みました。関係各位に改めて御礼を申し上げますとともに、更なる拡大を期待しております。

また、当会では毎年夏場に多く発生する水難事故を減少させるため、水難救済の思想普及や安全指導による「海の安全教室」の実施や「海のそなえプロジェクト」の推進、さらには公式Xを活用した周知活動を通じ、これまで以上に積極的に対策を講じております。

日本水難救済会は、全国約50,000人のボランティア救助員の活動支援や洋上救急事業等について、本年も的確な運営を推進してまいり所存でございます。

年頭にあたり、全国各地で活動する救難所員をはじめ関係者の皆様のご健勝と一層のご発展を心より祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。



明治22年11月3日、讃岐の金刀比羅宮で「大日本帝国水難救済会」の開会式が行われて以来、今年11月で日本水難救済会は創立137周年を迎えます。

長きにわたり活動を続けてこれたのは、全国各地で昼夜を問わず水難救済に取り組まれている地方水難救済会の皆様、洋上で救急医療活動に尽力されている医療機関の皆様、そして国や自治体、海事・漁業関係団体など多くの方々のご支援とご協力のおかげです。

皆様の温かいご理解とご尽力に、心より感謝申し上げます。

これからも、人々の命と海の安全を守るため、皆様とともに力を合わせて歩んでまいります。

令和8年1月

公益社団法人 日本水難救済会

理事長 遠山 純司

常務理事 江口 圭三

ほか 職員一同



上段左から 根本総務部長代理、高橋経理部長代理、榎本第二事業部長代理、中山第三事業部員、廣岡経理部員、石本第二事業部員
下段左から 菅野第一事業部長、佐藤総務部長、遠山理事長、相原会長、江口常務理事、鈴木第三事業部長

01	名誉総裁 年頭挨拶
02	海上保安庁長官 年頭挨拶
03	公益社団法人 日本水難救済会会長 年頭挨拶
04	公益社団法人 日本水難救済会役職員 年頭挨拶
06	MRJグラビア 令和7年度名誉総裁表彰式典
12	能登半島地震復興状況御視察
14	日本水難救済会における事業活性化を促すための活動報告
17	連載 マリンレスキュー紀行 海の安全安心を支えるボランティアたちの群像 山口県水難救済会 萩越ヶ浜救難所／防府市救難所
22	全国地方救難所のお膝元訪問 ニッポン港グルメ食遊記(萩越ヶ浜救難所)
23	青い羽根募金活動レポート2025 令和7年度青い羽根募金強調運動／閣僚の皆様に青い羽根を着用していただきました／青い羽根募金強調運動期間キャンペーン／ミス日本「海の日」の高橋綾乃さんにご協力いただきました／ミス日本「海の日」が国土交通事務次官等を表敬訪問／総理官邸に募金箱を設置して頂きました／中央合同庁舎等にポスターを掲示して頂きました／令和7年度「青い羽根募金」の状況／青い羽根募金活動を実施／令和7年度青い羽根募金運営協議会を開催／「青い羽根募金」にご協力をいただいた企業・団体等に感謝状を贈呈／TOPICS
27	水難救済思想の普及活動レポート 海の安全教室
30	マリンレスキューレポート Part1 救難所NEWS 海難救助訓練ほか／水難救助等活動報告
38	Part2 洋上救急NEWS 洋上救急活動報告／地方支部の活動状況／洋上救急慣熟訓練／中央及び地方支部の活動状況等
45	レスキュー41～地方水難救済会の現状(シリーズ⑨) 三重県水難救済会
47	新設救難所の紹介
48	MRJ 互助会通信
51	MRJ フォーラム (公社)日本水難救済会通常理事会、定時社員総会を開催
53	令和7年における日本水難救済会会長表彰受章者一覧、編集後記



名誉総裁 高円宮妃殿下

海難救助に功績のあった3団体、洋上救急に功績のあった1団体及び事業功労に功績のあった3個人が表彰されました。

令和7年6月12日、東京都千代田区平河町、海運ビル2階大ホールにおいて、本会名誉総裁 高円宮妃殿下のご台臨を仰ぎ、「令和7年度名誉総裁表彰式典」が盛大かつ厳粛に執り行われました。

式典には、ご来賓として中野洋昌^{なかのひろまさ}国土交通大臣、瀬口良夫^{せぐちよしお}海上保安庁長官、ならびに本会発祥の地である讃岐・金刀比羅宮の宮司 琴陵泰裕氏をお迎えしました。

今回の表彰では、海難救助に顕著な功績のあった3団体、洋上救急に功績のあった1団体、そして本会の事業推進に尽力された3個人が、名誉総裁表彰を受章されました。

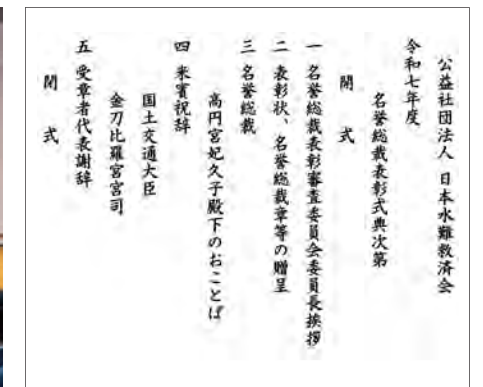
名誉総裁 高円宮妃殿下からは、受章された各団体・個人に対し、表彰状のほか、団体には名誉総裁盾、個人には名誉総裁章がそれぞれ授与されました。



式典会場に御入場される高円宮妃殿下



式典会場でお言葉を述べられる高円宮妃殿下



式典次第



名誉総裁表彰式典の様子



名誉総裁表彰審査委員会委員長挨拶
(日本水難救済会相原会長)



中野国土交通大臣祝辞



琴陵金刀比羅宮宮司祝辞



表彰状の授与



名誉総裁 高円宮妃殿下から表彰状等を授与された三崎救難所(愛媛)



受章した三崎救難所、三崎支所の皆様



名誉総裁 高円宮妃殿下から表彰状等を授与された愛媛県漁業協同組合三崎支所



名誉総裁 高円宮妃殿下から表彰状等を授与されたムーンビーチ救難所(琉球)



名誉総裁 高円宮妃殿下から表彰状等を授与された東海大学医学部付属病院



名誉総裁 高円宮妃殿下から感謝状等を授与された相沢 正雄 氏



名誉総裁 高円宮妃殿下から感謝状等を授与された小阪 友美 氏



名誉総裁 高円宮妃殿下から感謝状等を授与された武長 信亮 氏



三崎救難所 竹内 元昭 氏 による謝辞



式典会場を御退場される名誉総裁 高円宮妃殿下

令和7年度名誉総裁表彰受章者

■ 海難救助功労(団体)

えひめけんすいなんきゅうさいかいみさききゅうなんしよ
愛媛県水難救済会三崎救難所

令和6年9月5日午後6時頃、愛媛県佐田岬とその南西に位置する黄金峯との間の海上で、15名乗りの遊漁船が浅瀬に底触し浸水、沈没の危険に直面し、救助要請を受けた愛媛県水難救済会三崎救難所の救助員4名は、愛媛県漁業協同組合三崎支所の協力者6名とともに救助船等5隻で直ちに出勤し、荒天と薄暮の中、緊密な連携のもと救助活動を展開し、乗員乗客15名全員を無事救助されました。



愛媛県水難救済会三崎救難所

■ 海難救助功労(団体)

えひめけんぎょぎょうきゅうどうくみあいみさきしよ
愛媛県漁業協同組合三崎支所

令和6年9月5日午後6時頃、愛媛県佐田岬とその南西に位置する黄金峯との間の海上で、15名乗りの遊漁船が浅瀬に底触し浸水、沈没の危険に直面し、救助要請を受けた愛媛県水難救済会三崎救難所の救助員4名は、愛媛県漁業協同組合三崎支所の協力者6名とともに救助船等5隻で直ちに出勤し、荒天と薄暮の中、緊密な連携のもと救助活動を展開し、乗員乗客15名全員を無事救助されました。



愛媛県漁業協同組合三崎支所

■ 海難救助功労(団体)

りゅうきゅうすいなんきゅうさいかい きゅうなんしよ
琉球水難救済会ムーンビーチ救難所

令和6年7月24日午前9時10分頃、沖縄県恩納村前兼久漁港内において、軽自動車海中に転落する事故が発生、偶然現場に居合わせたムーンビーチ救難所員5名は、状況を即座に把握し、うち3名が直ちに海に飛び込んで沈みゆく車の中から要救助者1名を冷静かつ的確に救出するとともに、他の2名は岸壁から通報および車両の流出防止にあたるなど、全員が一致協力して短時間で無事1名を救助されました。



琉球水難救済会ムーンビーチ救難所

■ 洋上救急功労(団体)

とうかいだいがくいがくぶみせくびょういん
東海大学医学部付属病院

東海大学医学部付属病院は、洋上救急事業の協力医療機関として、昭和63年7月22日の初回出勤以来、これまでに108件の洋上救急事案に対して203名の医師及び看護師を巡視船や航空機等に同乗させて出勤し、傷病者に対して医療処置を行い、尊い人命の救助に貢献されました。



東海大学医学部付属病院

令和7年度名誉総裁表彰受章者

■ 事業功労(個人)

あいざわまさお
相沢 正雄 氏

同人は、本会が行う水難救済事業に感銘を受け重要性を深く認識するとともに、ボランティア救助活動等の支援に役立ててほしいと考え、令和4年11月15日から令和6年9月17日の間に6回にわたり「青い羽根募金」に多額の寄附をされました。



相沢 正雄 氏

■ 事業功労(個人)

こさかともみ
小阪 友美 氏

同人の配偶者は、長年にわたり海上保安庁に勤務し、海難救助の最前線で活動してこられ、その志を間近で見てきた同人は、海で命を守る尊い活動に強く共感し、水難救済事業の重要性を深く理解し一人でも多くの命が救われることを願い、令和7年1月13日、「青い羽根募金」に多額の寄附をされました。



小阪 友美 氏

■ 事業功労(個人)

たけながのぶあき
武長 信亮 氏

同人は、社会福祉士資格を有する弁護士として地域の人権擁護活動に従事する中、本会の水難救済事業に深く感銘を受け、その意義を強く認識し、また、令和6年の能登半島地震災害の報道を通じて、災害時における人命救助や地域支援の重要性を改めて痛感し、自らにできる社会貢献のあり方を再考し、令和5年10月16日から令和6年7月16日までの間に4回にわたり「青い羽根募金」へ多額の寄附をされました。



武長 信亮 氏

★ご来賓の皆様



左から中野国土交通大臣、瀬口海上保安庁長官、琴陵金刀比羅宮宮司



高円宮妃殿下のお言葉を拝聴されるご来賓の皆様

名誉総裁表彰式典の後、名誉総裁や来賓の皆様等とご懇談いたしました。



相原 力日本水難救済会会長挨拶



瀬口良夫海上保安庁長官挨拶



懇談会で受章者と名誉総裁 高円宮妃殿下との記念写真撮影が行われました。
上段左から 三崎救難所及び愛媛県漁業協同組合三崎支所、ムーンビーチ救難所、東海大学医学部付属病院
下段左から 相沢 正雄氏、小阪 友美氏、武長 信亮氏



受章者と笑顔で懇談される名誉総裁高円宮妃殿下



二木春美青森県漁船海難防止・水難救済会会長挨拶

名誉総裁高円宮妃殿下及び承子女王殿下は、能登半島地震により被災した救難所等の復興状況等の御視察のため石川県をご訪問されました。

名誉総裁高円宮妃殿下及び承子女王殿下は、令和7年7月1日(火)、能登半島地震により被災した救難所等の復興状況を御視察のため、石川県七尾市(能登水難救済会)及び輪島市等をご訪問されました。

ご訪問に際しては、被災地において救援・復旧活動に尽力した能登水難救済会の救難所や海上保安庁「巡視船のと」等の関係者を労われるとともに、現地の被災状況及び復興の進捗状況を確認されました。

ご訪問場所① 七尾市役所(能登水難救済会)



市役所でお出迎える茶谷能登水救会会長



復興状況等を説明する茶谷会長(七尾市長)



各救難所長との懇談

ご訪問場所② 巡視船「のと」



お出迎え



業務概要説明



乗組員への激励



船橋の説明

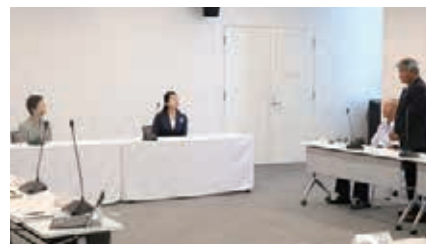


巡視船「のと」乗組員との集合写真

ご訪問場所③ 輪島市役所



復興状況等を説明する坂口市長



各救難所長との懇談



地元住民への激励（お声かけ）



輪島朝市跡地にて被災状況の説明



大規模火災に遭った朝市通りでの献花



地元住民への激励（お声かけ）

ご訪問場所④ 總持寺祖院



地元住民によるお出迎え、お見送り



被災、復興状況の説明



復興のシンボルとしてヤマボウシをお手植え



御焼香後お寺を後にする高円宮妃殿下

ご訪問場所⑤ 鹿磯漁港



隆起した漁港の視察



被災、復興状況の説明

能登半島地震復興状況御視察に際し、ご尽力いただいた関係者の皆様に深く御礼申し上げます。（公益社団法人 日本水難救済会）

日本水難救済会における事業活性化を促すための活動報告

水難救済会知名度向上のための講演等

① 経済同友会 同友二木会での講演

令和7年4月17日（水）12時から13時30分までの間、東京都千代田区丸の内パレスビル5階において、公益社団法人経済同友会同友クラブ「同友二木会」が開催され、当会遠山理事長が「人知れず日本の海を守って海上保安庁による海の治安と安全確保」をテーマに講演を行いました。

講演では、海の安全を支える仕組みや官民連携の重要性について説明するとともに、水難救済活動の現状等も紹介しました。



勉強会参加者へ講演を行う遠山理事長



② 浩志談論会での講演（5月21日@東京都内）

③ 日本体育大学救急医療学科「海上保安庁の救急搬送業務」講義（6月10日@日体大健志台キャンパス）

④ 海上保安庁教育機関、幹部研修での講演

（7月22日、10月20日海上保安部等課長任用前研修@海上保安大学校）

（9月18日海上保安学校現地赴任前学生への講演@海上保安学校）

（11月28日海上保安大学校研修科国際業務課程における講義@海上保安大学校）



海上保安大学校で講演を行う遠山理事長



⑤ 日本大学危機管理学部での講義

（9月25日～8年1月22日まで毎週木曜日@日本大学）

令和7年度における「海のそなえ」プロジェクト関連業務

■ 第2回「海のそなえシンポジウム」開催！

令和7年5月22日、東京都のTOKYO FMホールにおいて、第2回「海のそなえシンポジウム」が開催され、(うみらい環境財団主催、河川財団協力、日本財団、日本ライフセービング協会及び当会の共催)パネルディスカッション「危険を知り、命を守る。溺れないための教育について」に当会遠山純司理事長が登壇しました。

遠山理事長は、水辺の事故を防ぐためには、単なる知識の普及にとどまらず、水難予防教育を担う人材の育成が重要であることを強調し、その体制づくりの必要性を訴えました。



■ 「海の安全教室」指導者等講習会を開催！

令和7年5月21日(水)から23日(金)にかけて、海事センタービル2階会議室において、当会として初の試みとなる「海の安全教室」における指導者を招いた研修会を開催しました。

本研修は、全国で児童・生徒への水難始動防止にあたっている指導者間の意思疎通と事故防止に関する知識の共有、「海のそなえ」プロジェクトの取組に対する理解の醸成を図ることを目的として開催したものです。研修には、日本水泳連盟スポーツ環境委員長でバルセロナオリンピック金メダリストの岩崎恭子氏やJリーグFC東京の宮本貴史氏をはじめとする5名の外部講師を招き、全国から海上保安官を含む36名が参加しました。



講習会の様子



講師：日本水泳連盟 岩崎恭子氏



講師：FC東京 宮本貴史氏



講師：日本体育大学 小川理郎氏



講師：(公財)河川財団 菅原一成氏



講義を受ける受講者

■ 「海のそなえ」プロジェクト講習会等を開催！(延べ20カ所)

① ラグーナ蒲郡ラグナシアプール(愛知県蒲郡市)

令和7年6月18日(水)及び25日(水)、愛知県蒲郡市のラグーナ蒲郡ラグナシアプールにおいて、市内の小中学生約70名を対象に、気象・海象情報の確認やライフジャケットの正しい着用方法など、海や海岸で安全に楽しむための知識を学ぶ「海の安全教室」を実施しました。

また、ジョイマーレの浜辺では実際に海に親しみながら、安全行動を体験する実習も行いました。



ジョイマーレの浜辺でライフジャケットの実際の着用等の指導を行う江口常務理事

② 大阪市立田辺小学校にて開催(大阪府大阪市)

令和7年6月19日、7月2日大阪府大阪市の市立田辺小学校において、2年生、4年生、6年生及び教職員約400人を対象に、水難事故に関する講話を交え、特に衣服を着た状態で水中に落下した場合の対処など具体的な内容を含む着衣泳の実技研修を実施しました。



小学生及び教師に対し講話を交えながら着衣泳の指導を行う江口常務理事

③ 千代田区立九段中等教育学校にて開催(5月28日、7月31日@東京都千代田区 約1000人)

④ 海上保安庁安全講習指導者研修会にて開催(6月11日@神奈川県横浜市 約20人)

⑤ 三島市立向山小学校にて開催(7月8日、11日@静岡県三島市 約170人)

⑥ 麴町幼稚園にて開催(7月14日@東京都千代田区 約30人)

⑦ 木津川市立恭仁・加茂・南加茂台小学校にて開催(7月16日@京都府木津川市 約90人)

⑧ 都立練馬高校にて開催(7月17日@東京都練馬区 約750人)

⑨ 千代田区番町小学校にて開催(7月18日@東京都千代田区 約50人)

⑩ 愛媛県北条鹿島にぎわいまつりにて開催(7月21日@愛媛県 約40人)

⑪ 横浜そらいろ保育園にて開催(7月22日@神奈川県横浜市 約40人)

ほか9カ所で開催

海の安全安心を支える ボランティアたちの群像

山口県水難救済会 萩越ヶ浜救難所／防府市救難所



山口県水難救済会
萩越ヶ浜救難所

▲右／山口県漁業協同組合越ヶ浜支店運営委員長の梶本久繁さん 左／同越ヶ浜支店長の山下隼人さん

豊かな漁場と観光資源 レジャー客と漁師仲間を守る

取材協力：山口県漁業協同組合、山口県水難救済会

豊富な観光スポットに 多くの観光客が

吉田松陰や木戸孝允、高杉晋作、伊藤博文といった維新の志士を輩出した地として知られる、山口

県萩市。市内には歴史的な観光スポットが多く遺されているとともに、北部には自然が生んだ観光スポットも。直径30m・深さ30mの小さな噴火口を持つ標高112mの小さな活火山の笠山や、海水に



より多種の海の魚が泳ぐ明神池、真夏でも15℃程度の風が吹く天然のクーラーのようなスポットの風穴(かざあな)といった観光名所がある。また、それらに近い萩漁港にはマリーナが隣接し、多数のプレジャーボートが係留されている。豊富な魚種に引かれての遊漁客も多く、漁業者が副業的に釣り船を出している。こうした萩市への観光客は多く、2024年度は390万



▲山口県水難救済会萩越ヶ浜救難所が設けられている山口県漁業協同組合はぎ統括支店

人近くが訪れている。

山口県水難救済会萩越ヶ浜救難所は、山口県漁業協同組合はぎ統括支店内に設けられている。はぎ統括支店は域内に13支店を擁しており、その一つである越ヶ浜支店は同統括支店内に併設されている。したがって、萩越ヶ浜救難所の所員は、はぎ統括支店および越ヶ浜支店の職員計23名が兼務している形だ。ちなみに、はぎ統括支店の組合員数約700名中、越ヶ浜支店は約300名と最大規模だ。

軽微な事故は 助け合って解決

はぎ統括支店および萩越ヶ浜救難所は、萩漁港の一角にある。周辺海域の特徴としては、大昔に海底火山の噴火によってできた穴島諸島(萩穴島)と呼ばれる6つの小島が点在している。各島の沿岸部は浅瀬となっていて、座礁するプレジャーボートがあるという。特に夜釣り客が多い。

「事故の連絡を受けた海上保



▲萩越ヶ浜救難所の目の前は萩漁港

安庁から、海保の船では大き過ぎて近づけないから、救出のために漁船を出してほしいとの要請を受け出動したことがあります。とは言え、漁船も座礁するリスクがあります。その時は海域の特徴を熟知している海女さんに別の船で同行してもらい、誘導してもらいながら慎重に接近し、ロープで牽引、脱出させました」と越ヶ浜支店運営委員長の梶本久繁さんは話す。同救難所に関わる漁業者

の船が1t未満から20t程度まで幅広く揃っていることはメリットだろう。

そのほか、海上や海中や浮遊する漁網やロープがスクリーンに絡みついて動けなくなるといったトラブルは後を絶たない。

「漁業者は船団を組んで出漁するケースが多かったり、近くに僚船がいるので助け合って解決するケースが多く、事故として表面化しません。しかし、こうした軽微な



▲山口県漁業協同組合はぎ統括支店および越ヶ浜支店の皆さん

場合であっても海上保安庁からは報告するよう指導されています。海域を安全に保つべく対処することが同庁の役割だからです」と越ヶ浜支店長の山下隼人さんは打ち明ける。

海保と連携し 遭難者救出に成功

これまで、梶本さんらが体験した印象に残る事故としては、20年ほど前に単独で出漁した漁業者が帰宅しないとの連絡を受け、捜索に出ると無人の当該漁船を発見。落水事故として周辺海域を捜索するも、今日まで見つからないという。「こういう事故は我々も精神的にダメージを受ける」と梶本さんは声を落とす。

一方、2024年7月に同じく単独出漁し帰宅しないという事故が発生したものの、好結果となったケースもある。

「20時頃、たまたま職場で残業していた時に奥様から『(夫の)携帯に電話しても出ない』との連絡を受けました。即座に海保に連絡し、海保が携帯番号から居場所を特定して、越ヶ浜救難所メンバー



▲萩漁港に隣接するマリーナ

の漁船2隻に数名ずつ分乗して現場に向かいました。そこで船内で気絶している当人を発見し、救出して病院に搬送しました。真夏のカンカン照りの船上で転倒して頭を打ち気絶したので、日焼けで水腫れができていましたね。当時78歳で心配しましたが、2週間程度の入院で済み、今は元気に出漁しています」と山下さんは説明する。

「人命救助が最優先」 との先輩の教え

救難所の一員として、ボランティア活動に取り組む理由を梶本さんに尋ねた。



▲多種の海の魚が泳ぐ明神池

「海の上では、誰もがいつ事故に巻き込まれるかわかりません。人命救助の上で、何か起これば駆けつけるのは当然のことです。我々が漁師になった時にまず先輩から教わったのは、危険な状況にある人がいたら、漁網のロープを切っても助けに行け、ということでした」

同地には、海中に包丁を落とすと海の神様が怒ると言い伝えがある。実際に落としてしまった漁師は、明神池の傍らにある厳島神社でお祓いをしてもらうそうだ。それだけ、海の事故を恐れているということだろう。

「こうした気構えがあるから、万一落水事故に遭遇しても、機転を利かせて浮く漁具を投げるといった対処ができると思いますよ」と梶本さんは結んだ。



▲笠山山頂展望台からの眺め



山口県水難救済会 防府市救難所

▲左から、山口県漁業協同組合吉佐支店長の徳富暁江さん、同向島支所運営委員長の河内山満政さん、同中浦支所運営委員長の吉村一馬さん、同野島支所運営委員長の西山寛さん、同東部支所運営委員長の栗林昭博さん、同吉佐統括支店長の阿部寿幸さん、同向島支所の平尾利子さん

漁場が内航航路に 重なる海域

山口県水難救済会防府市救難所が併設されている山口県漁協の吉佐統括支店は、瀬戸内海に面する防府市沿岸部の新築地町にある。同統括支店が直轄する吉佐支店は、向島支所(組合員22名)、中浦支所(同17名)、東部支所(同9名)、野島支所(同11名)を擁しており、それぞれが救難所も兼務している形だ。

周辺海域の特徴としては、瀬戸内海西端部の周防灘と伊予灘に面し、両灘を数多くの船舶が行き

交う内航航路の存在が挙げられる。また、遊漁船を運営している漁協の準組合員がおり、多くの釣り客が訪れている。さらに、各漁港の一部にプレジャーボートを係留するオーナーも少なくない。「海上は漁師よりもレジャー客のほうが多い」と向島支所運営委員長の河内山満政さんは言う。

地形的には、多くの湾口部に「沈み瀬」と呼ばれる水面下に隠れている岩礁が点在しており、その存在を知らないプレジャーボートが接触することもあるという。また、「穏やかな瀬戸内海であっても、特に冬の沖合は強風で荒れること

もある」と野島支所運営委員長の西山寛さんは話す。

船同士の衝突が しばしば発生

こうした海域で発生する重大な事故としては、船同士の衝突が数年に一回程度起きているという。深刻なケースとしては、衝突された漁船が転覆し、乗っていた組合員の漁師が水没した船室から脱出できず水死体で発見されたことがある。

「海上保安庁から、『転覆した船の一部に“三”という文字が見える』と当救難所に連絡が入りました。調べると『三栄丸』という組合員の船だと分かり、救助に向かいましたが残念な結果となりました」と吉佐支店長の徳富暁江さんは打ち明ける。衝突したほうの船は逃走し、いまだに見つけられていない。

「関門海峡を抜けて外海に逃げ



▲防府市救難所が併設されている山口県漁業協同組合吉佐支店

られると、もう捕まらなと言われ
ていました。最近*AISがあるの
で、すぐに判明することができます
が」と河内山さんは補足する。

*AIS(Automatic Identification System):
船舶自動識別装置

AISアプリが 主な自衛手段

レジャー客同士の衝突事故もある。
沖合に停泊していた釣り船に
モーターボートが猛スピードで衝突
し、釣り船の船体にスクリューの傷
跡を残すとともに船体の一部が破
損、浸水するという事態となった。

「冬の風が強い日でしたが、た
またま近くで漁をしていた時に『ド
カン!』という大きな音がしたので
すぐ行ってみると、そういう状態で
した。幸い沈没は免れ、ロープを繋
いで近くの港まで曳航しました。け
が人が出なかったことは不幸中の
幸いでしたね」と中浦支所運営委
員長の吉村一馬さんは説明する。

特に魚が豊富な漁場が周防灘
と伊予灘の境目にあるが、多くの
船が行き交う航路と重なっている



▲防府地方卸売市場は道の駅に隣接



▲卸売市場直結の道の駅内の鮮魚店には、
獲れたての魚が並ぶ



▲防府市救難所のすぐ近くには瀬戸内海

という。特に危険なのは、夜間の底
びき網漁。急に他船の接近に気づ
いても、底びき網が“足かせ”と
なって逃げるにもスピードや操舵
性が格段に落ちるからだ。

そんな海域で漁をする漁業者と
しての主な自衛手段は、AIS搭載の
大型船の接近を知らせるアプリ。

「自分がいる場所にどんな船が
何分後に来るということまで教え
てくれるので、手放せません」と東
部支所運営委員長の栗林昭博さ
んは話す。

救命訓練で 的確な処置を

なお、レジャー客の中には、漁を
している漁船の辺りは魚影が濃い
場所だと思ってか、近寄って釣りを
始めて漁を邪魔するようなマナー

の悪い者もいるという。

「そういった人であっても、万
一事故に遭えば我々漁業者も救助
に向かいます。仲間だけでなく、同
じ人として助けるのは当然であり、
明日は我が身だからです」と吉佐
統括支店長の阿部寿幸さんは強
調する。

なお、同統括支店管轄の救難所
が合同で人工呼吸や心臓マッサー
ジなどの救命訓練を行う予定だと
いう。

「組合員は高齢者が多く、海上
で発作などが起きた際に仲間が的確
に処置できるようにしておくべき
との声が、他地区での当該事故
の発生を契機に挙がりました。当
救難所としてもできるだけの準備
をしておきたいと考えています」と
徳富さんは締め括った。



▲吉佐支店と接する山口県漁協防府地方卸売市場

全国地方救難所の
お膝元訪問

ニッポン 港 グルメ食遊記



▲手軽に味わえる
うどんも「おいしい」と人気

▼店は『萩・椿まつり』も開催される
笠山椿原生林の入口にある



地元・越ヶ浜の漁協婦人部の方々
がつくる“おふくろの味”が自慢
(中央が末武さん)



◀大人気の『つばき定食』、サザエ飯つき

▼萩名産のアマダイ



▲萩のあまだいは日本一

つばきの館

萩市北部の笠山虎ヶ崎、日本海を目の前に望む椿群生林の入口という絶好のロケーションにある食事処。
地元名産のアマダイの煮つけをメインにした『つばき定食』が大人気だ。

『つばきの館』は、1995(平成7)年2月に萩市
で初の全国椿サミット大会が開催されることを機
に、萩市議会議員であった木村靖枝さんが「萩市
名産のアマダイを多くの人に味わってもらいた
い」との思いで開業した。

アマダイは、山口県が全国一の漁獲高を誇り、
県内でも萩市の水揚げが7割を占める。『つばきの
館』では、この高級魚として知られるアマダイの煮
つけをメインにした『つばき定食』を、サザエ飯の
場合は2,400円、白飯は2,200円という低価格
で提供。これを求めに、県内各地から数多くの人が
来店するという。

「『つばき定食』は、開業からしばらくは1,500
円でお出ししていましたが、その後徐々に獲れる
量が減って価格が上がってしまっています。『それ
でも安い』と、わざわざ遠くから多くのお客様に
来て頂いています」と店長の末武延代さんは話す。
特に、毎年2月中旬から3月中旬にかけて笠山椿
群生林で開催される『萩・椿まつり』の期間、週末
には行列ができるほどの人気だ。

この人気ぶりを紹介するためのメディア取材も

多く、地元のテレビ局などだけでなく、NHKでも
取り上げられている。

「時期によっては地物のマダイや下関のノドク
ロを仕入れてやりくりすることもあります。です
から、『つばき定食』をご希望のお客様は、必ず事前
にお電話で確認してください」と末武さんは呼び
かける。



住所: 萩市椿東716-16(萩市虎ヶ崎・椿群生林入口)
電話: 0838-26-6446
営業時間/11:00~15:00(オーダーストップ)
休業日/水曜日・木曜日(但し臨時休業あり)、年末年始
収容人数/テーブル: 34名、座敷: 16名 団体客対応可(20名まで)

全国50,000人のボランティア救助員の活動を支えます。

青い羽根募金活動レポート2025



街頭募金活動にご協力を頂いた海洋少年団などの皆様



—令和7年度 青い羽根募金強調運動—

日本水難救済会では、周年青い羽根募金活動を展開しておりますが、特に「海の日」を中心に、7月から8月までの2か月間を「青い羽根募金強調運動期間」として、全国の地方水難救済会と連携し、全国規模で募金運動を展開しています。

この期間、多くの皆様に青い羽根募金の趣旨をご理解いただき、暖かいご支援を賜りました。また、海上保安庁や防衛省をはじめ関係省庁、地方自治体、企業、団体等からも多大なご協力をいただきました。特に、防衛省の陸上・海上・航空自衛隊の隊員の皆様や、海洋少年団、学校生徒会の皆様には、募金活動に対し格別のご協力をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。

さらに、令和7年7月8日(火)に開催された閣僚懇談会では、全閣僚(各省庁の政務三役を含む)の皆様に青い羽根を着用いただき、青い羽根募金活動へのご理解とご協力を広く呼びかけていただきました。

皆様のご支援・ご協力に深く感謝申し上げますとともに、今後も青い羽根募金の趣旨へのご賛同とご支援をお願い申し上げます。

■ 閣僚の皆様に青い羽根を着用していただきました。



令和7年7月8日の閣議前に全閣僚の皆様に青い羽根を着用していただきました。
(左から、浅尾環境大臣、中野国土交通大臣、村上総務大臣、石破内閣総理大臣、中谷防衛大臣、加藤財務大臣、岩屋外務大臣)

「青い羽根募金強調運動期間」キャンペーン

2025ミス日本「海の日」の高橋 彩乃さんにご協力いただきました。



ミス日本「海の日」高橋彩乃さんと公益社団法人日本水難救済会 相原会長

令和7年7月11日(金)、「青い羽根募金強調運動期間」のキャンペーンの一環として、公益社団法人日本水難救済会の相原会長と遠山理事長は、2025ミス日本「海の日」高橋彩乃さんとともに、水嶋国土交通事務次官、瀬口海上保安庁長官、大沢消防庁長官、藤田水産庁長官並びに海上保安庁等関係機関の幹部の皆様を表敬訪問しました。

訪問先では、「青い羽根」を着けていただき、青い羽根募金運動の普及・推進ならびに強調運動期間中でのご支援・ご協力をお願いしました。

■ ミス日本「海の日」が国土交通事務次官をはじめ海上保安庁、消防庁及び水産庁の長官等を表敬訪問



水嶋国土交通事務次官への表敬訪問



瀬口海上保安庁長官への表敬訪問



大沢消防庁長官への表敬訪問



藤田水産庁長官への表敬訪問



海上保安庁マスコットキャラクター及び救難課職員への表敬訪問



■ 総理官邸に募金箱を設置して頂きました。



総理官邸に設置された募金箱



■ 中央合同庁舎等にポスターを掲示して頂きました。



中央合同庁舎2号館に掲示(霞が関)



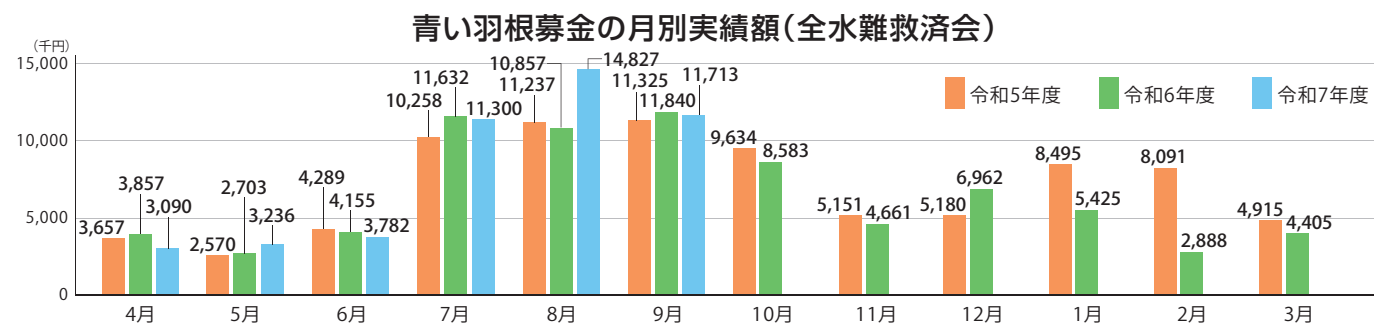
中央合同庁舎3号館に掲示(霞が関)



海事センタービルに掲示(麹町)

—令和7年度「青い羽根募金」の状況—

皆様のご支援により、令和7年4月から9月末までに、累計47,951,488円の募金をいただきました。(下図参照)



—青い羽根募金活動を実施—



海上保安庁音楽隊定期演奏会会場における募金活動



2025ミス日本「海の日」高橋彩乃さんによる「海の日」海事関係功労者祝賀会会場における募金活動



全国各地で海洋少年団、ボーイスカウト等による募金活動



青い羽根募金運営協議会の様子

—令和7年度青い羽根募金運営協議会を開催—

令和7年5月27日、海事センタービル2階会議室において、令和7年度青い羽根募金運営協議会が開催されました。

当日は、委員である外部有識者7名をはじめ関係者が出席し、令和6年度の青い羽根募金活動及びその実績並びに募金の使用実績について審議が行われました。

また、令和7年度の青い羽根募金活動計画についても審議され、承認されました。

「青い羽根募金」は、海難救助ボランティアの活動を支えています。

全国津々浦々で活躍する約50,000人の民間ボランティア救助員が、効果的かつ安全な海難救助を行うためには、常日頃から組織的な訓練を行うとともに、ライフジャケットやロープなど救助資機材の整備が必要となります。

このため、公益社団法人日本水難救済会では、昭和25年から「青い羽根募金」を開始し、こうした民間ボランティア救助員の救難活動に必要な資金を確保するため全国の一般市民の皆様や企業の皆様方に募金をお願いしております。

「青い羽根募金」は、公益社団法人日本水難救済会のホームページ(<https://www.mrj.or.jp/index.html>)から「インターネット募金」をする方法や「青い羽根募金」口座に直接振り込む方法等のほか、清涼飲料水を購入することにより、売上金の一部が自動的に「青い羽根募金」として寄附される「青い羽根募金自販機」を利用する方法もあります。

皆様方のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

—「青い羽根募金」にご協力をいただいた企業・団体等に感謝状を贈呈—



■ 航空自衛隊入間基地 様



■ 近代化学株式会社 様



■ 五洋建設株式会社 様



■ 鹿島建設株式会社 様



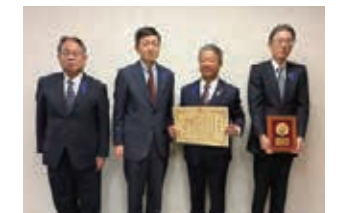
■ 東洋建設株式会社 様



■ 陸上自衛隊朝霞駐屯地 様



■ 若築建設株式会社 様



■ 東亜建設工業株式会社 様

Topics

青い羽根募金支援自動販売機を新設

除幕式等を開催

～地元発の支援活動 自動販売機除幕式の様子を紹介～

①香川県水難救済会

令和7年11月6日、日本水難救済会発祥の地である金刀比羅宮の境内に、青い羽根募金支援自動販売機が設置されました。設置場所は神馬前広場で、同日、除幕式も執り行われました。除幕式には金刀比羅宮宮司の琴陵泰裕氏をはじめ、関係者が多数参列し、盛大に行われました。



②特定非営利活動法人 長崎県水難救済会

令和7年11月7日、全国の教育機関として初めて、長崎県長崎市の長崎総合科学大学1号館3階ロビーに青い羽根募金支援自動販売機が設置されました。当日は、設置を記念してテープカットが行われるとともに、設置に尽力された関係者への表彰式も併せて実施され、セレモニーは盛大に行われました。



青い羽根募金支援自動販売機設置にご尽力いただいた関係者の皆様に深く御礼申し上げます。(公益社団法人 日本水難救済会)



水難事故を未然に防ぐために 水難救済思想の普及活動レポート

日本水難救済会は、愛知県蒲郡市立中央小学校参加のイベントに江口常務理事を派遣し、児童を対象とした「海の安全」を開催

海の安全教室

平成13年度から平成28年度まで全国の小中学校等で児童・生徒を対象に「若者の水難救済ボランティア教室」を開催し、海での事故を防ぐための知識のほか、万一、自分や友達等が海で遭難した時に助かる術と安全に助ける術等を指導していましたが、平成29年度からは、名称を「海の安全教室」と変更し、対象を子供たちだけでなく、教師や保護者をはじめ、地元一般市民にまで拡大し、全国各地で展開しています。

特定非営利活動法人 神奈川県水難救済会

e-Lifesavingを活用した「海の安全教室」を開催

令和7年7月1日から2日にかけて、平塚市立花水小学校において、水辺の安全意識の向上を目的に、湘南海上保安署、平塚市消防本部、湘南ひらつかライフセービングクラブから講師を招き、児童を対象に心肺蘇生法（胸骨圧迫）の実技指導やe-Lifesavingを活用した学習、さらに海や川での事故を防ぐ方法をクイズ形式で学ぶ授業が行われました。児童たちにとっては、楽しみながら水辺で安全に行動するための知識と技術を身につける貴重な機会となりました。



e-Lifesavingを活用した学習に聞き入る生徒



開催に携わった講師と関係者

広島県水難救済会

外部講師を招き小学生を対象とした「海の安全教室」を開催

令和7年7月9日から16日にかけて、広島市立河内小学校、五日市中央小学校、藤の木小学校、矢野南小学校、美鈴が丘小学校において、広島海上保安部、日本赤十字社、広島市安芸消防団および(株)シーサイトから講師を招き、海や川に出かける際の備えや心構えについての講話と、着衣のまま水に落ちた場合を想定した着衣泳の実技講習が行われました。児童たちは、救命胴衣の正しい着用方法や水中での安全な行動を実際に体験しながら学び、水辺での事故防止に対する意識を高める貴重な機会となりました。



川や海に出かける際の備えや心構えを学ぶ児童（五日市中央小学校）



救命胴衣の正しい着用方法を学ぶ児童（藤の木小学校）



ライフジャケットを着用し浮き方の技能を講習（五日市中央小学校）



水難事故を防ぐための注意事項等の説明を受ける児童（河内小学校）

公益社団法人 琉球水難救済会

高校生を対象とした「海の安全教室」を開催

令和7年6月16日、沖縄県那覇市の沖縄県立沖縄水産高等学校において、海洋技術科の生徒40名を対象に、安全意識の向上を目的とした海の安全教室が開催されました。

第十一管区海上保安本部、那覇海上保安部、沖縄ライフセービング協会から講師を招き、那覇海上保安部による海難防止に関する講話、沖縄ライフセービング協会による海の安全講話のほか、心肺蘇生法の訓練が行われました。

生徒たちにとっては実技を交えた学びを通して海での安全行動の重要性を改めて理解する貴重な機会となりました。



海難防止に関する講話（那覇海上保安部）



ダミーを使って実際に心肺蘇生法を体験する生徒

小学生を対象とした「海の安全教室」(着衣泳)を開催

令和7年7月8日、茨城県桜川市立雨引小学校において、4年生から6年生までの児童57名を対象に、茨城海上保安部および茨城県水難救済会から講師を招き、着衣泳の体験、溺者救助体験、ライフジャケットを着用した浮き方体験を実施しました。児童たちは、実際の体験を通して水辺の危険性や安全の大切さを学び、「海や川に子どもだけで絶対に行かないこと」「ライフジャケットの重要性がよく分かった」「イカ泳ぎができるようになったので海や川でも試してみたい」などの感想を述べ、水辺での安全意識を高める貴重な機会となりました。



ライフジャケット着用体験



児童からの感想文

小学生、中学生を対象とした「海の安全教室」を開催

令和7年6月26日(木)から8月29日にかけて、富山市立岩瀬中学校、和合中学校、北部中学校、水橋中学校、魚津市立東部中学校及び氷見市立朝日丘小学校において、生徒計573名を対象に、伏木海上保安部、富山北消防署、魚津消防署及び氷見消防署から講師を招き、「海の安全教室」を実施しました。

児童たちは、講話「海浜事故防止のために」(伏木海上保安部)、救命講習「心肺蘇生法(AED含む)」及び着衣泳法(各消防署)について詳しく学び、児童生徒が海や水辺での安全確保の大切さを理解し、事故防止への意識を高める貴重な機会となりました。



海浜事故防止について学ぶ生徒
(魚津市立東部中学校)



心肺蘇生法を学ぶ生徒
(富山市立北部中学校)



心肺蘇生法を学ぶ生徒
(富山市立岩瀬中学校)



心肺蘇生法を学ぶ生徒
(富山市立和合中学校)



心肺蘇生法を学ぶ生徒
(富山市立水橋中学校)



海浜事故防止について学ぶ児童
(氷見市立朝日丘小学校)

海難救助訓練ほか

令和7年度は、9月末現在までに全国の地方水難救済会において延べ70回訓練が開催され、107の救難所・支所から1,656名の救難所員が参加しました。



北海道留萌港南岸地区南岸壁における「北海道留萌地区救難所訓練大会」開会式の様子(写真提供:北海道海難防止・水難救済センター)

特定非営利活動法人 神奈川県水難救済会

緊急対策訓練及び地震避難訓練を実施

令和7年6月3日、神奈川県石橋ダイビングセンターにおいて、救難所員19名が「事故者引き上げと海岸での酸素投与・心肺蘇生の模擬訓練」や「関係各所への通報、消防への引継ぎ動線の確認」、さらに「津波警報発令時の避難経路確認」を実施し、迅速かつ的確な対応体制の強化を図りました。



事故者引き上げ訓練



訓練に参加した救難所員



避難経路の確認をする参加者

山形県水難救済会

5つの救難所による 合同海難救助訓練を実施

令和7年9月20日、念珠関救難所、温海救難所、豊浦救難所、由良救難所、加茂救難所の5救難所は、基本動作や資器材点検、救命索発射訓練等の訓練を実施し、救難所員の団結を深め、救助技術の向上を図りました。



排水訓練 (温海救難所)



基本動作訓練 (念珠関救難所)



救命索発射訓練 (豊浦救難所)



心肺蘇生法 (由良救難所)



救命索発射訓練 (加茂救難所)

特定非営利活動法人 長崎県水難救済会

令和7年度平戸地区三機関合同救助訓練を実施

令和7年7月11日、平戸市川内町川内漁港埋立地及び周辺海域において、志々伎救難所紐差救難支所は、平戸海上保安署、平戸警察署、平戸市消防本部との三機関合同訓練に参加しました。

磯場で発生した死亡事故を教訓に、迅速な救助体制の確立と相互連携の維持・深化を目的として実施された本訓練を通じ、関係機関との適切な連携体制を身につけることができました。



情報伝達訓練



漂流者救助訓練

公益社団法人 福岡県水難救済会

火災船消火訓練等を実施

令和7年7月15日、福岡県糟屋郡新宮町の相島港内において、相島救難所員13名が参加し、火災船消火訓練、浸水船排水訓練、曳航訓練を実施しました。

これら訓練は、実際の海難発生時に迅速かつ的確に対応できるよう救難活動に必要な技術と連携体制の向上を目的としており、参加所員は真剣に各訓練に取り組み、実践的な技能の向上を図りました。



火災船消火訓練



浸水船排水訓練



浸水船からの人命救助訓練



救命索発射訓練

公益社団法人 琉球水難救済会

心肺蘇生・AED取扱訓練を実施

令和7年5月8日、南城市玉城奥武所在の奥武島救難所において、救難所員を対象に心肺蘇生およびAEDの取扱訓練を実施しました。

本訓練は、実際の救助現場を想定した実践的な内容に対して参加者から多くの具体的な質問が寄せられるなど、理解を深める有意義な訓練となりました。



AEDを使用した心肺蘇生法講習の様子



公益社団法人 北海道海難防止・水難救済センター

北海道留萌地区救難所訓練大会を実施

令和7年6月28日、留萌市留萌港南岸地区南岸壁において「北海道留萌地区救難所訓練大会」が実施されました。
天塩、遠別、初山別、羽幌、苫前、小平、留萌、増毛の各救難所から救難所員157名が参加、日頃の訓練成果を確認するとともに総合訓練を通じて救難技術の一層の向上を図りました。



心肺蘇生法訓練



ゴムボート操法訓練



救命索発射訓練



火災船消火・救助訓練

特定非営利活動法人 神奈川県水難救済会

逗子津波訓練を実施

令和7年7月1日、逗子海岸および指定緊急避難場所（披露山公園、蘆花記念公園）において、市全域で震度7の地震発生と大津波警報発令を想定した情報伝達、避難誘導、徒歩避難の各訓練が実施されました。
ライフセーバーや海の家スタッフ、近隣住民など約260名と逗子救難所員5名が参加し、災害時の迅速な情報共有と安全な避難行動の確認を通じて防災意識の向上を図りました。



津波フラッグと音声による情報伝達訓練



船上からレジャー客への情報伝達訓練

水難救助等 活動報告

令和7年度上半期に報告のあった、
主な水難救助活動の事例を報告します。



① 漂流した水上オートバイを救助

千葉県水難救済会 富津岬PW救難所

令和7年8月9日午前1時10分頃、富津岬展望塔北側において2名乗り水上オートバイが航行不能となりました。当該水上オートバイの所有者から出動要請を受けた富津岬PW救難所の救難所員名は、救助船「富津岬をまもる会Ⅱ(0.2トン)」にて出動し、付近砂浜まで曳航救助しました。



水上オートバイを曳航する「富津岬をまもる会Ⅱ」

② 釣り中に機関故障となったミニボートを曳航救助

愛知県水難救済会 三河湾東部地区救難所 ラグナマリーナ救難支所



救助船「LAGUNA2Two」

令和7年10月20日午前8時30分頃、西尾市梶島周辺海域において、釣り中の2名乗りミニボートが機関故障のため航行不能となりました。三河海上保安署から救助要請を受けたラグナマリーナ救難支所の救難所員2名は救助船「LAGUNA2Two(1.5トン)」に乗り組み出動し、曳航救助しました。

③ 風浪と潮流により機関不能となったゴムボートを救助

公益社団法人琉球水難救済会 国頭救難所

令和7年9月23日午後4時50分頃、辺土名桃原海岸ビーチ北500m海上において、2名乗りの手漕ぎゴムボートが風浪と潮流により帰還不能となりました。国頭消防から出動要請を受けた国頭救難所の救難所員2名は救助船「綱吉丸(0.6トン)」、「かふう(1.2トン)」にて急行、要救助者2名を救助船内に収容し、ゴムボートを辺土名漁港まで曳航救助しました。

④ 座礁、浸水した外国船籍のヨットと乗組員を捜索

公益社団法人北海道海難防止・水難救済センター 落石救難所

令和7年7月16日午前11時30分頃、根室半島落石岬付近において、3名乗り組みの外国船籍のヨットが座礁、浸水しました。根室海上保安部から出動要請を受けた落石救難所の救難所員7名と協力者1名は、救助船「第二十三卓漁丸(4.9トン)」、「第八十一豊漁丸(4.9トン)」、「第三十一漁美丸(4.9トン)」にて出動し捜索を開始しました。当該ヨットのものと思われる漂流物を多数発見し、根室海上保安部に連絡したところ、落石岬に自力で避難した乗組員3名がすでに救助されたとの報告があったため救助活動を終了しました。



救助船「第八十一豊漁丸」



救助船「第二十三卓漁丸」



救助船「第三十一漁美丸」

⑤ 深夜に座礁した漁船を引き卸し曳航救助

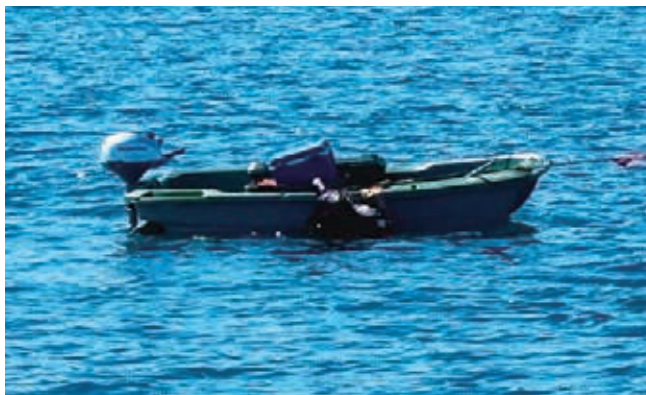
香川県水難救済会 庵治救難所

令和7年8月29日午前2時40分頃、高松市庵治町高島北側において、2名乗り組みの漁船が座礁しました。当該漁船船長から出動要請を受けた庵治救難所の救難所員12名は、救助船「庵治丸(11.18トン)」、「あじ丸(1.1トン)」、神宮丸(4.9トン)」、皇神丸(4.95トン)」、「景光丸(2.5トン)」にて出動し、救助船2隻で引き卸しを試みたが潮が引いており難航したため、満潮になる午後0時20分を待って再び作業を行い、動線を引き降ろしたうえ、庵治漁港まで曳航し救助を完了しました。

⑥ ミニボートからの落水者を救助

非営利活動法人長崎県水難救済会
野母崎救難所

令和7年7月23日午後2時20分頃、長崎市野母新港入り口南東海域において1名乗りミニボートが転覆し、乗船者が海中に転落しました。長崎海上保安部から出動要請を受けた野母崎救難所の救難所員3名は、救助船「輝瞳丸(4.9トン)」にて出動し、要救助者を救助船内に引き上げ、消防救急隊に引き継ぎました。



転覆したミニボート

⑦ 定置網に乗り上げたミニボートを救助

福井県水難救済会 若狭町水難救難所

令和7年7月22日午前11時15分頃、三方上中郡小川漁港黒グリ灯台の北西海上において1名乗りミニボートが定置網に乗り上げ航行不能となりました。小浜海上保安署から出動要請を受けた若狭町水難救難所の救難所員2名は、救助船「きりしま(1.4トン)」に乗り組み出動し、ミニボートを定置網から引き降ろしたうえ、神子漁港まで曳航救助しました。

⑧ ゴムボートで漂流した海水浴客を救助

島根県水難救済会 出雲救難所 多伎支所

令和7年8月4日午後2時10分頃、出雲市多伎町久村東海岸の消波ブロック付近で1名乗りゴムボートが漂流しているとの119番通報がありました。出雲消防が要救助者に対しドローンを使用した声掛け等を行い、出動要請を受けた出雲救難所多伎支所の救難所員6名と協力者1名は、救助船「大和丸(1.3トン)」、協力船「多伎吉丸(19トン)」、「宝丸(1.25トン)」にて出動し、要救助者を救助船内に収容し小田漁港まで搬送後、救急隊に引き継ぎ救助を完了しました。



救助船(右から)「大和丸」「宝丸」「多伎吉丸」

⑨ 漂流したSUPから岩場に避難した5名を救助

公益社団法人北海道海難防止・
水難救済センター 余市救難所

令和7年7月22日午前11時40分頃、余市白岩付近において、SUPをしていた複数名が沖に流され帰還不能となりました。小樽海上保安部から出動要請を受けた余市救難所の救難所員2名は、救助船「第十八優誠丸(1.4トン)」にて出動し、烏帽子岩付近の岩礁にて要救助者5名を発見、救助船内に移乗させ出足平漁港まで搬送しました。



救助船「第十八優誠丸」

⑩ 火災船から海に飛び込んだ乗組員を救助

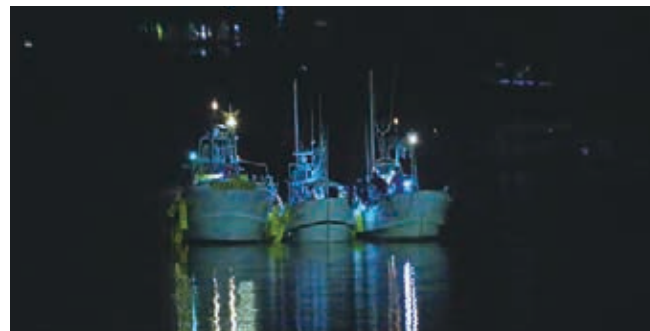
鹿児島県水難救済会 志布志市救難所

令和7年7月22日午後3時50分頃、志布志港南防波堤堤防灯台付近において、漁船から火災が発生し乗組員2名が海に飛び込みました。火災船を発見した志布志救難所の救難所員7名は救助船「第五朝飛丸(5.9トン)」、「第八希望(4.2トン)」、「第十八天龍丸(3トン)」、「天龍丸(3.58トン)」、「ブルーンサルーン号(19トン)」にて出動し、要救助者2名を「第五朝飛丸」船内に引き上げ救助を完了しました。

11 浸水した漁船を曳航救助

佐賀県水難救済会 玄海中地区救難所

令和7年8月1日午後9時頃、唐津市鎮西町加唐島灯台付近において3名乗り漁船が浸水しました。唐津海上保安部から出動要請を受けた玄海中地区救難所の救難所員3名は、救助船「天王丸(9.1トン)」にて出動し、名護屋港まで曳航救助し救助を完了しました。



曳航救助の状況

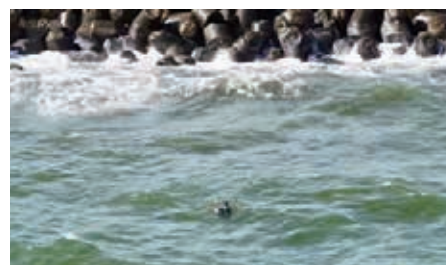


救助された漁船(陸揚げ保管中)

12 水上オートバイから投げ出された漂流者を救助

非営利活動法人神奈川県水難救済会 茅ヶ崎救難所

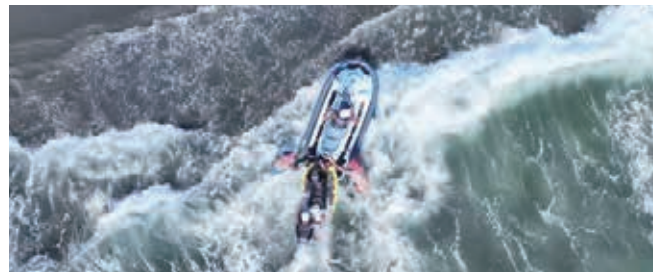
令和7年7月28日午後3時20分頃、茅ヶ崎市茅ヶ崎南防波堤西方のヘッドランド消波ブロックに、水上オートバイが波により打ち付けられたそのはずみで乗船者1名が投げ出され漂流しました。一般人から出動要請を受けた茅ヶ崎救難所の救難所員は救助船「シーバード茅ヶ崎1(1トン)」に乗り組み出動し、要救助者を引き上げ救助しました。



救助を待つ要救助者



要救助者に近づく「シーバード茅ヶ崎1」



救助の状況

13 プロペラに漂流ロープと網が巻き付き航行不能となった漁船を救助

非営利活動法人長崎県水難救済会 野母崎救難所

令和7年9月11日午後6時20分頃、長崎市野母崎樺島灯台西側において、漁場に移動中であった1名乗り漁船のプロペラに漂流していたロープと網が巻き付き航行不能となりました。当該漁船船長から出動要請を受けた野母崎救難所の救難所員5名は救助船「輝瞳丸(4.9トン)」にて出動し、脇岬港まで曳航救助を完了しました。



救助船「輝瞳丸」



漁船のプロペラに巻き付いたロープと網

マリンレスキューレポート

Part 2

洋上救急NEWS

洋上救急活動報告



昭和60年10月の事業開始以来、令和7年10月末日までに1,018件の洋上救急事案に対応しています。

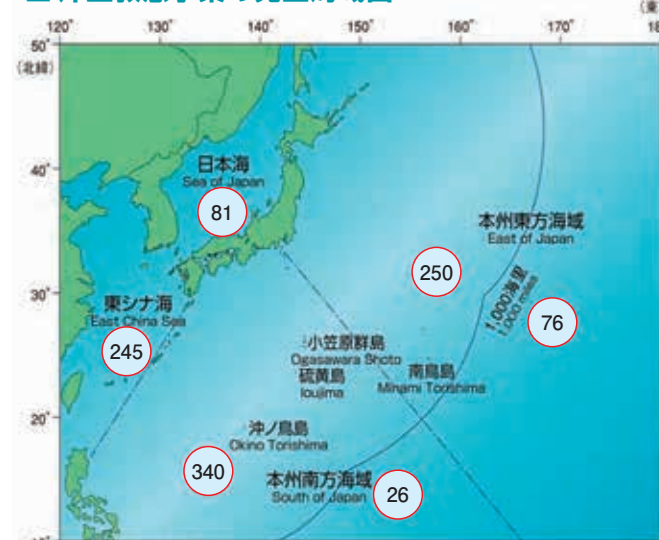
(写真提供:海上保安庁)

昭和60年10月に本会に洋上救急センターを設置してから、令和7年10月で40周年を迎えました!



「洋上救急」とは、我が国周辺海域や遠く洋上の船舶内で傷病者が発生し、緊急に医師の治療を要する場合に、海上保安庁の巡視船・航空機または自衛隊機により、本会の協力医療機関に所属する医師や看護師等を現場に派遣し、応急処置を行いながら最寄りの医療機関へ緊急搬送するシステムです。

洋上救急事案の発生海域図



○数字は海域別の発件数を示す。

Numbers indicate cases of rescue operations.

昭和60年度～令和7年10月23日現在 総件数1,018件

最近の主な洋上救急活動事例

海上保安庁巡視船及び航空自衛隊ヘリコプターが連携し、漁船から乗組員を搬送

令和6年9月28日 15:05発生

令和6年9月28日午後3時5分頃、金華山灯台の東南東約770海里付近を航行中の漁船から、乗組員が激しい腹痛を訴えているとの通報が海上保安庁(第二管区海上保安本部)に寄せられました。東京高輪病院から、症状は胃潰瘍または胆石の疑いがあり、悪化の可能性があることから、早急な医療機関への搬送が必要との医療助言があったことから、海上保安庁は仙台航空基地の機動救難士2名を乗船させた巡視船「ざおう」を出動させるとともに、現場が遠距離であることから、9月30日午後7時20分に航空自衛隊へ災害派遣を要請し受理されました。

同日午後8時30分仙台医療センターから医師1名、看護師1名が同乗した航空自衛隊UH-60Jが松島基地を出発し、現場で患者を収容していた巡視船「ざおう」から患者の引継ぎを受け、機内で医療行為を実施しながら松島基地へ搬送し、その後、基地にて待機していた救急車により石巻赤十字病院へ搬送しました。

【発生位置】金華山灯台から南東約770海里付近海上
【傷病者】男性35歳(インドネシア国籍 船員)
【出動医療機関】仙台医療センター
医師1名、看護師1名
【出動勢力】海上保安庁:巡視船ざおう、機動救難士2名
航空自衛隊:航空機U-125A ヘリコプターUH-60J



患者を巡視船「ざおう」搭載艇が収容に行く様子



患者を巡視船「ざおう」船内に移送する様子



航空自衛隊松島基地ヘリコプターUH-60Jでの患者吊上げの様子
(写真提供:海上保安庁)

海上保安庁巡視船と及び同庁ヘリコプターの連携により日本籍イカ釣り漁船乗組員を搬送

令和6年9月29日 03:00発生

令和6年9月29日、石川県珠洲市禄剛崎灯台から北北西約319km付近の海上を航行中の日本籍イカ釣り漁船の甲板長(41歳)が前日28日午前3時頃に錘を顔面にぶつけて受傷し、休息を取っていましたが、目の痛みや頭痛が治まらなかったため、新潟市民病院の医師から「早めに医師の診断を受けた方がよい」との助言を受け、海上保安庁(第九管区海上保安本部)に対し救助の要請がありました。

同要請を受けた海上保安庁は、巡視船「さがみ」及び新潟航空基地所属ヘリコプターMH970(機動救難士2名)に新潟市民病院の医師1名、看護師1名を同乗さ

せて出動。巡視船「さがみ」は、午前6時45分に現場へ到着し搭載艇による救助を開始し、午前7時10分に負傷者を船内に収容。その後午前10時30分に負傷者をヘリコプターへ引き渡しました。同機は午後0時37分に新潟基地へ到着し、午後0時42分に待機していた救急車へ引き渡し新潟市民病院へと搬送されました。

【発生位置】禄剛崎灯台から北北西約319海里付近海上
【傷病者】男性41歳(日本国籍 甲板長)
【出動医療機関】新潟市民病院
医師1名、看護師1名
【出動勢力】海上保安庁:巡視船さがみ ヘリコプターMH970
機動救難士2名

海上保安庁巡視船とヘリコプターが連携し外国籍貨物船から患者を搬送

令和6年11月21日 17:45発生

令和6年11月21日午後5時45分頃、沖縄本島南端から南東約550海里付近のパナマ籍貨物船N号から「乗組員に急患が発生したため救助を要請する」との通報が海上保安庁(第十一管区海上保安本部)にありました。

本件の患者は30歳のベトナム国籍の乗組員でした。

海上保安庁は沖縄県立南部医療センターに対し洋上救急の派遣を要請したところ、同センターがこれに応諾したため、洋上救急を実施することが決定しました。

翌22日午前8時38分、那覇航空基地からヘリコプターMH966号(はまちどり1号)が医師1名を同乗させ出発し、午前9時58分に先に発動していた巡視船「りゅうきゅう」に一時着船し、その後離船、午後3時32分に貨物船と会合しました。

午後4時1分に患者1名を吊り上げ救助し、午後4時40分に巡視船「りゅうきゅう」に一旦着船したうえ離船、那覇空港へ向け出発しました。

午後9時30分に那覇空港へ到着、午後9時45分に那覇市消防局へ患者を引き継ぎ沖縄県立南部医療センターまで搬送しました。



ヘリコプター機内で応急処置を行う医師等

【発生位置】沖縄本島南端から南東約550海里付近海上
【傷病者】男性30歳(ベトナム国籍 乗組員 司厨員)
【出動医療機関】沖縄県立南部医療センター
医師1名
【出動勢力】海上保安庁:巡視船りゅうきゅう 機動救難士2名
ヘリコプターMH966(はまちどり1号)



巡視船りゅうきゅう



海上保安庁ヘリコプターMH966(はまちどり1号)



那覇空港にてヘリコプターから救急隊へ患者を引き継ぐ様子
(写真提供:海上保安庁)

その他の主な洋上救急の状況 (令和6年12月1日～令和7年10月31日現在)

航空自衛隊ヘリコプターと海上保安庁航空機の連携により外国籍鉱石運搬船乗組員を搬送

令和6年12月16日 20:21発生

(発生場所) 沖ノ鳥島の南西約150海里付近
(傷病者) 甲板員、25歳、男性、フィリピン国籍
(症状) 激しい胃痛、嘔吐
(船舶) パナマ籍鉱石運搬船
〈オーストラリアから中国向け〉
(出動勢力) 海上保安庁:巡視船いしがき、航空機MA721
航空自衛隊南西航空方面隊:UH-60J
(概要) 同船の運航者から海上保安庁(第三、第十一管区海上保安本部)に通報、その後、医療機関から早急な搬送と

受診が必要との医療助言あり。
17日午後3時35分、航空自衛隊ヘリUH-60Jに沖縄赤十字病院医師1名が同乗し、那覇基地を出発。
午後8時8分、南大東島南約210海里付近で該船から患者を収容。
午後9時41分、南大東島で海上保安庁航空機MA721に患者を引継ぎ。
午後11時30分、MA721那覇基地着、患者を救急隊に引継ぎ、沖縄赤十字病院へ搬送。

海上保安庁、海上自衛隊が遠洋で発生した急患を救助 迅速な連携で命を繋ぐ

令和7年4月21日 04:00発生

(発生場所) 硫黄島の東南東約450海里付近
(傷病者) 甲板員、45歳、男性、キリバス国籍
(症状) 胸の痛み
(船舶) 日本漁船
(出動勢力) 海上保安庁:巡視船あきつしま、航空機LAJ501
海上自衛隊岩国航空基地:US-2
(概要) 乗組員の胸に痛みがあるため、医療助言を受けたところ、心筋梗塞の疑いがあるとの助言があり、該船から海上保安庁(第十一管区海上保安本部)に通報。
21日午前10時25分、海上自衛隊US-2に東海大学医学部付属病院医師等3名が同乗し、厚木基地を出発。
午後3時47分、該船と会合、患者を収容し、現場を離水、硫黄島へ向かう。

午後5時30分、US-2硫黄島着、すでに到着していた海保LAJ501に患者及び医師等3名が乗機し、硫黄島発、羽田基地向け。
午後8時5分、LAJ501羽田基地着、患者を救急隊に引継ぎ、東邦大学医療センター大森病院へ搬送。



海上自衛隊飛行艇から海上保安庁航空機へ患者を引き継ぐ様子
(写真提供:海上保安庁)

海上自衛隊ヘリコプターと海上保安庁航空機の連携により日本漁船員を搬送

令和7年9月29日 04:00発生

(発生場所) 硫黄島南方約300海里付近
(傷病者) 機関長、69歳、男性、日本国籍
(症状) 重度の凍傷
(船舶) かつお漁船
(出動勢力) 海上保安庁:巡視船ぶこう、航空機LAJ501
海上自衛隊硫黄島基地:SH-60K
(概要) 冷凍機の点検中に冷却液に触れ、重度の凍傷が疑われるため、医療助言を受けたところ、早急な搬送が必要との助言があり、該船から海上保安庁(第三管区海上保

安本部)に通報。
10月1日午前5時27分、海保LAJ501に日本医科大学付属病院医師2名が同乗し、羽田基地を出発。
午前6時42分、海自SH-60K硫黄島出発、該船と会合、負傷者を収容し、硫黄島へ向かう。
午前7時32分、LAJ501硫黄島着、海自SH-60Kから負傷者引継ぎ、医師等2名が乗機して、硫黄島発、羽田基地向け。
午前9時55分、LAJ501羽田基地着、負傷者を救急隊に引継ぎ、日本医科大学付属病院へ搬送。

洋上救急慣熟訓練

洋上救急出動の要請を受け、医師や看護師は慣れない巡視船や航空機に乗り込んで遥か洋上まで出動し、厳しい条件のもとで救命治療を行う事となります。それに備えるために全国で慣熟訓練が行われています。

東北地方支部

(R6.9.27実施)

令和6年9月27日、海上保安庁仙台航空基地において、八戸市洋上救急支援協議会の3病院から医師3名、宮城県洋上救急支援協議会の1病院から看護師2名、両協議会の事務局職員5名および第二管区海上保安本部等の職員15名が参加し、同基地所属のヘリコプターを活用した実地訓練を実施しました。

道東地方支部

(R6.10.10実施)

令和6年10月10日、釧路海上保安部及び巡視船「えりも」において、釧路市内4病院の医師等8名と同保安部職員が参加し、洋上救急制度の概要説明などの座学を行ったほか、巡視船「えりも」での資機材確認や船内見学を実施しました。

北部九州地方支部

(R6.11.19実施)

令和6年11月19日、北九州航空基地において、北部九州地区洋上救急支援協議会に所属する医療機関の医師2名の立会いのもと、救急シミュレーション訓練を実施しました。本訓練には、海上保安庁から鹿児島航空基地及び北九州航空基地の機動救難士が参加し、実働に備えた連携強化を図りました。

日本海中部地方支部

(R6.12.17実施)

令和6年12月17日、金沢海上保安部及び巡視艇「かがゆき」において、金沢地区協力医療機関所属の医師等4名と、海上保安庁から金沢海上保安部職員、巡視艇乗組員、新潟航空基地機動救難士が参加し、洋上救急事業の説明や巡視艇船内見学、乗船訓練、洋上での応急処置訓練、意見交換を実施し、洋上救急活動における関係機関の連携強化と実践的対応力の向上を図りました。

南九州地方支部

(R7.2.10実施)

令和7年2月10日、南九州地区において、南九州地区洋上救急支援協議会の協力医療機関の医師・看護師等28名と第十管区海上保安本部、鹿児島・熊本・宮崎・奄美の各保安部、鹿児島航空基地および七ツ島運航支援センターの職員が参加し、洋上救急事業の説明、巡視船「しゅんこう」船内見学、機内活動訓練、模擬出動訓練等を実施することで、洋上救急活動における関係機関の連携強化と実践的対応力の向上を図りました。



洋上救急事業説明の様子



資機材の確認の様子



模擬訓練の様子

沖縄地方支部

(R7.3.4実施)

令和7年3月4日、那覇航空基地において、沖縄県に所在する5つの協力医療機関から医師・看護師等9名が参加し、第十一管区海上保安本部職員および那覇航空基地職員とともに、洋上救急事業の説明や救急資機材の紹介、降下訓練の展示、機内での応急処置訓練を実施しました。

その他の支部の訓練実施状況

北部九州地方支部

(R7.3.4実施:参加医療機関4機関)

日本海中部地方支部

(R7.6.13実施:参加医療機関1機関)

日本海西部地方支部

(R7.3.4実施:参加医療機関3機関)

東北地方支部

(R7.8.8実施:参加医療機関4機関)



ヘリコプターの説明



機内での応急措置訓練

中央及び地方支部の活動状況等

令和7年度に行われた洋上救急支援協議会等の活動状況等を一部紹介します。

中央洋上救急支援協議会第40回通常総会等が開催されました

令和7年7月10日、海運クラブにおいて、中央洋上救急支援協議会第40回通常総会が開催されました。

冒頭、(公社)日本水難救済会の相原会長および中央洋上救急支援協議会の高瀬美和子会長から挨拶が行われ、その後、議案の審議が行われました。

議案は、

第1号議案「令和6年度事業報告について」

第2号議案「令和6年年度収支決算について」

第3号議案「令和7年度事業計画について」

第4号議案「令和7年度収支予算について」

第5号議案「役員の選任について」

について審議がなされ、それぞれ異議なく承認されました。

議案審議ののち、報告事項として

①洋上救急の年度別出動実績等について

②中央洋上救急支援協議会「幹事」「顧問」の交代について

③洋上救急功労者の表彰実績等について

の報告がなされ、その後、来賓の瀬口良夫海上保安庁長官からご挨拶をいただき、総会は閉会しました。

引き続き、洋上救急功労者の表彰式が行われ、その後、日本医科大学付属病院高度救命救急センター部長・横堀将司医師による講演が実施されました。



第40回通常総会の様子



日本水難救済会 相原力会長挨拶



瀬口良夫海上保安庁長官挨拶



高瀬美和子会長挨拶

事業功労で日本水難救済会の会長表彰を受章された方を紹介します

<個人表彰：洋上救急支援協議会役員>

(受章者) 東海大学医学部附属八王子病院

副院長 中川儀英氏(勤続20年)



東海大学医学部附属八王子病院
副院長 中川儀英氏に感謝状が贈呈されました。



受章された東海大学医学部附属八王子病院
副院長 中川儀英氏(写真中央)との集合写真

「洋上救急40周年に寄せて」——日本医科大学付属病院 横堀将司医師が記念講演

令和7年7月10日、海運クラブにおいて開催された中央洋上救急支援協議会第40回通常総会および事業功労者表彰に続き、日本医科大学付属病院高度救命救急センターの横堀将司医師による「コッキジュンコウ～洋上救急40周年に寄せて～」と題した記念講演が行われました。

コッキジュンコウ「克己殉公」とは、「我が身を捨てて、広く人々のために尽くす」ことであり、日本医科大学の学是とされています。

洋上救急の40年という長い歩みの中で、関係者の努力や想いが時を超えて受け継がれ、今も命を支える活動が続いているという時間と命の循環をテーマにしたメッセージ性のある講演となりました。



講演を行う横堀将司医師

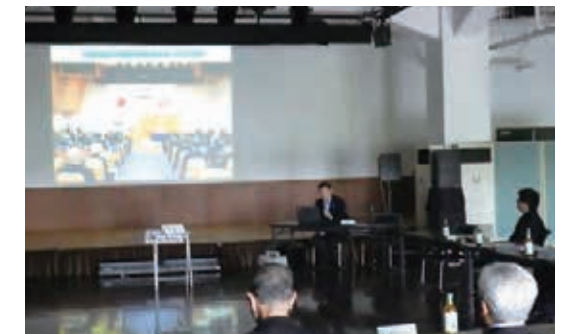


地方支部洋上救急支援協議会の総会等が開催されました

■ 北部九州地区洋上救急支援協議会(令和7年6月4日開催)



洋上救急支援協議会総会にて業務講話を行う日本水難救済会 遠山純司理事長



■ 関西四国地区洋上救急支援協議会(令和7年7月28日開催)



総会の様子



業務講話を行う日本水難救済会 遠山純司理事長

■ 日本海中部地区洋上救急支援協議会(令和7年10月29日開催)



総会の様子



洋上救急制度創設30周年を迎えるにあたり制定された
マスコットキャラクター
「きゅうすけけん」
(洋上救急バージョン)

レスキュー41～ 地方水難救済会の現状 (シリーズ⑬)

水難救済を通じて社会的要請に的確に応えていくための取り組みとして、水難救済への思いを同じくする仲間において情報を交換し、意識の高揚を図るため、平成27年(2015年)1月から「レスキュー41～地方水難救済会の現状」として地方組織について紹介しております。

今回は、三重県水難救済会を紹介致します。

三重県水難救済会

1 設立年月日

大正8年4月15日設立(社団法人帝国水難救済会三重県支部)
平成10年7月30日設立

2 所在地

〒514-0006 三重県津市広明町323-1
三重県漁業協同組合連合会指導部内
☎059-228-1205

◎交通案内

・公共交通機関
JR紀勢本線・近鉄名古屋線 津駅下車 徒歩約5分

3 役職員の数

会 長 濱口 慶太(三重県漁業協同組合連合会会長)
副 会 長 矢田 和夫(鈴鹿市漁業協同組合組合長)
その他役員 理事3名、監事2名

4 沿革・歴史等 (主なもの)

明治22年 / 大日本水難救済会発足
大正 8年 4月15日 / 帝国水難救済会三重県支部発足
大正 8年 3月28日 / 九鬼救難所
大正 8年 5月12日 / 賢崎救難所
大正 8年 5月25日 / 四日市救難所
大正 8年 9月15日 / 波切救難所
大正11年10月10日 / 五ヶ所湾救難所
大正13年 4月 3日 / 鳥羽救難所
昭和11年 7月19日 / 三重若松救難所
昭和14年 3月25日 / 錦救難所
昭和18年 3月21日 / 長島救難所
昭和62年12月 / 伊勢湾北中部地区海難救助連絡協議会
平成 元年11月 / 鳥羽・伊勢地区海難救助連絡協議会
平成10年 7月30日 / 三重県水難救済会発足(救難所等組織改編)
志摩・度会地区海難救助連絡協議会
熊野灘地区海難救助連絡協議会
紀南地区海難救助連絡協議会

5 救難所・支所の数 (令和7年10月1日現在)

救難所:5カ所 救難支所:95カ所 救難所員数3,672名



三重県水難救済会が入居する三重県水産会館



濱口 慶太 会長

■救難所配置図



6 地域特性等

本州のほぼ中央に位置する三重県は、北は愛知県・岐阜県・滋賀県、西は京都府・奈良県・和歌山県と隣接しており、南北に細長い地形が特徴です。北から鈴鹿山脈・布引山地、中央の伊勢平野・上野盆地、そして南部の紀伊山地、台高山脈で構成されており、これらの山地が県土を縦断し、リアス海岸の志摩半島と複雑な海岸線を形成しています。太平洋側の木曽岬町から紀宝町までの1,088kmに及ぶ海岸線には、木曽三川の恵み豊かな伊勢湾、離島やリアス海岸の入り江が続く伊勢志摩地域、黒潮の恵みを受ける熊野灘など、変化に富む豊かな漁場を有し、それぞれの海域特性に応じた多種多様な漁業が営まれています。

また、志摩半島を中心に広がる美しいリアス海岸をはじめ、伊勢神宮や世界遺産の熊野古道、飼育種類数日本一の鳥羽水族館、F1などの世界的レースも行われる鈴鹿サーキットなど、美しい自然や名所・旧跡、観光スポット等が数多く存在し、国内外を問わず多くの観光客が訪れます。海水浴や釣り、サーフィン、SUPなどの海洋レジャー等で海へ訪れる人も多いため、海難事故発生時には各救難所が海上保安部や消防等と連携の上、救助活動にあたっています。



鳥羽・志摩の海女漁の様子



日本一おいしいあおさのりの養殖



サバやアジなどの魚介を採る巻き網漁の様子

7 主な保有資器材

安全棒5個、救命胴衣269個、協力ライト8個、双眼鏡10個、携帯用拡声器16個、携帯用発電機2台、投光器11台、探照灯4台、救命索発射器3台、救命浮輪16個、担架1台、ロープ18丸、毛布3枚、救急セット6式、AED3台、消火器27個、消防兼排水ポンプ10台、携帯用無線電話機6個、蘇生教育人体モデル1台など

8 保有救助船

各救難所の所員が所有する救助船 524隻

9 活動状況 (令和6年度)

救助出動実績

◎海難救助出動件数:9件 ◎出動救難所員等数:延べ423名
◎出動船舶数:延べ143隻 ◎救助人命:7名 ◎救助船舶数:2隻

10 主に力を入れている事業

①青い羽根募金

毎年7月～8月の「青い羽根募金強調運動期間」に積極的に募金活動を実施し、協力を呼びかけています。

また、県内に設置されている「青い羽根募金支援自販機」の売上金の一部が青い羽根募金として寄付されています。

②救難資材の整備

救難体制の強化を図るため、青い羽根募金を有効に活用し、各救難所の救難資材の整備を行っています。

③海難救助訓練の支援

救難体制の強化を図るため、海上保安部や消防等の協力を得て各救難所が実施する海難救助訓練を支援しています。



心臓マッサージを学ぶ救難所員



海上保安部と救難所との合同訓練の様子

新設救難所等の紹介

海難救助の拠点となる、新たな救難所等が開設されています。今回は、令和6年10月以降に設置された3か所の救難所をご紹介します。

■ 特定非営利活動法人 神奈川県水難救済会

◆ 藤沢救難所

- ◎令和7年5月11日設立 ◎所長ほか29名
- ◎所在地／神奈川県藤沢市片瀬海岸3-26-15
西浜SLSCクラブハウス内

藤沢救難所は、藤沢市内の水辺の事故ゼロを目指し活動する西浜SLSCを母体として設立されました。西浜SLSCは、1963年に発足した国内最古のライフセービングクラブで、片瀬西浜・鵜沼海水浴場や、片瀬東浜海水浴場など、国内屈指の海水浴場のパトロール活動に従事しています。加えて、“自分の命を自分で守る”を教育テーマとしたジュニアライフセービング活動も展開しており、現在子供から大人まで約400名が在籍する団体となっています。

藤沢市では、これまで、海上保安庁や藤沢消防、藤沢警察などの公的救助機関とライフセーバー等の民間団体による連携会議を定期的に行い、救助連携を図ってきました。

この度の救難所設置に伴い、関係各所との連携が促進され、藤沢地域の水辺の事故ゼロに向けて、より一層活動を強化して行くとともに、国内の水辺の事故ゼロに向けたモデル地域となるよう、努めていく所存です。



藤沢救難所



藤沢救難所の皆さん

■ 公益社団法人 琉球水難救済会

◆ 名嘉真・希望ヶ丘ビーチ救難所

- ◎令和7年8月3日設立 ◎所長ほか1名
- ◎所在地／沖縄県国頭郡恩納村名嘉真1952-13 Adan内

沖縄本島北部の西海岸に位置し北西に東シナ海を望む恩納村。沖縄県屈指の観光リゾート、沿岸部には林立する大型リゾートホテル。令和6年4月1日にオープンしたハレクラニ沖縄救難所の南隣に「名嘉真・希望ヶ丘ビーチ救難所」を開設しました。

開所式は、8月3日の午前中に実施し、救難所関係者、伊武部希望ヶ丘自治会長、副会長、地元関係者が参列し、救難所の開設による水難救助体制の構築に期待を寄せていました。

恩納村沿岸では13番目、沖縄県内では90番目の救難所となりました。隣接するハレクラニ沖縄救難所と海難救助の連携についても協議がなされており、効果的な海難救助体制が行われるものと期待されます。



名嘉真・希望ヶ丘ビーチ救難所の皆さん

■ 兵庫県水難救済会

◆ あわじ北救難所

- ◎令和7年9月1日設立 ◎所長ほか7名
- ◎所在地／兵庫県淡路市楠本374-7

水上オートバイユーザーが事故や怪我なく笑顔で帰ってほしい。楽しいPWCRレジャーをいつまでも続けてほしい。そんな思いで安全啓発やパトロールを行い1隻でも事故がないようお願い、新しい救難所を開設しました。



MRJ 互助会通信

令和7年度日本水難救済会救難所員等互助会第1回理事会開催

互助会の理事会が開催され、「令和6年度事業報告及び収支決算(案)」並びに「令和7年度事業計画及び収支予算(案)」が審議されました。

令和7年10月15日、海事センタービル4階会議室において、日本水難救済会救難所員等互助会の「令和7年度第1回互助会理事会」が開催されました。

互助会理事会は、会長、理事長、理事3名、会計監査役1名の計6名が出席して行われ、議長の相原会長の挨拶の後、以下の各議案について審議がなされました。

第1号議案 令和6年度事業報告及び収支決算(案)について

第2号議案 令和7年度事業計画及び収支予算(案)について

第1号議案については、事務局長の江口常務理事から説明後、小川会計監査役から監査結果の報告があり、承認されました。また、第2号議案については、事務局長から説明後、特段の意見もなく、承認されました。



相原会長挨拶



第1回互助会理事会の様子

(左から時計回りに、羽柴理事(長崎県水難救済会副会長)、久保田理事(北海道海難防止・水難救済センター専務理事)、遠山理事長、相原会長、江口事務局長、小川会計監査役(前(株)成山堂書店取締役会長)、横山理事(㈱海代表取締役社長))

【第1号議案】令和6年度事業報告及び収支決算(案)について

1 令和6年度事業報告(令和6年10月1日から令和7年9月30日まで)

互助会は、平成20年10月1日に設立し、会員及びその家族の相互救済と福利増進を図る観点から、各種事業を行っており、今回が17期目の決算となります。



[1] 加入者数について

令和6年度末の加入者数は18,459人(全国の救助員全体の約38.16%、前年度比446名減少)

[2] 災害給付及び見舞金給付事業

(1) 災害給付事業、(2) 休業見舞金給付事業、(4) 遺児等育英奨学金事業、(5) 災害見舞金給付事業

「災害給付事業」、「休業見舞金給付事業」、「遺児等育英奨学金事業」、「災害見舞金給付事業」、については、令和6年度はいずれも該当する事例はありませんでした。なお、能登半島地震に関しては、今後とも能登水難救済会と連絡を密にして災害見舞金給付事業を推進していきます。

(3) 私物等損害見舞給付事業

「私物等損害見舞給付事業」、については、令和6年度においては、2名に対し20万円を給付しました。(北海道利尻郡において転覆漁船を救助に向かい自身の船舶に被害を受けた北海道海難防止・水難救済センター鬼脇救難所員2名への給付)

(6) 互助会誌発行事業

「マリネスキュージャーナル」2025年1月号に互助会コーナーを設け、記載のとおり、理事会開催概要や、令和5年度事業報告、令和5年度収支決算書、令和6年度事業計画及び収支予算(案)を掲載しました。

2 令和6年度収支計算書(令和6年10月1日から令和7年9月30日)

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
I 事業活動収支の部			
1 事業活動収入			
(1)会費収入	10,000,000	9,235,000	765,000
互助会会費収入	10,000,000	9,235,000	765,000
(2)雑収入	1,010,000	1,087,392	△77,392
受取利息収入	10,000	154,094	△144,094
雑収入	1,000,000	933,298	66,702
事業活動収入計	11,010,000	10,322,392	687,608
2 事業活動支出			
(1)事業費支出	2,200,000	2,376,879	△176,879
会誌発行費支出	310,000	286,879	23,121
保険料支出	1,890,000	1,890,000	0
互助会給付金支出	0	200,000	△200,000
(2)管理費支出	3,287,000	3,146,115	140,885
人件費支出	1,600,000	1,587,000	13,000
会議費支出	18,000	13,505	4,495
旅費交通費支出	100,000	0	100,000
通信運搬費支出	130,000	145,033	△15,033
事務費支出	100,000	86,880	13,120
電算機事務費支出	180,000	196,499	△16,499
印刷製本費支出	160,000	131,337	28,663
光熱水料費支出	18,000	15,623	2,377
賃借料支出	890,000	889,294	706
諸謝金支出	11,000	10,314	686
雑支出	80,000	70,630	9,370
事業活動支出計	5,487,000	5,522,994	△35,994
事業活動収支差額	5,523,000	4,799,398	723,602
II 投資活動収支の部			
1 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2 投資活動支出			
互助会給付引当資産取得支出	4,523,000	4,799,398	△276,398
投資活動支出計	4,523,000	4,799,398	△276,398
投資活動収支差額	△4,523,000	△4,799,398	276,398
III 予備費支出	1,000,000	0	1,000,000
当期収支差額	0	0	0
前期繰越収支差額	0	0	0
次期繰越収支差額	0	0	0

【第2号議案】令和7年度事業計画及び収支予算(案)について

1 令和7年度事業計画(令和7年10月1日から令和8年9月30日まで)

[1]会員の募集について

令和7年度の会員数が、本年10月1日現在で、18,459人であり、全国の救難所員総数が減少しているため、互助会会員数も若干の減少が見込まれます。

引き続き、互助会の趣旨を周知する等して会員の募集に努めます。

[2]災害給付及び見舞金給付事業等

(1)災害給付事業

会員が水難救助業務中に災害を受けた場合に、互助会が保険会社と保険契約を締結して、保険会社から本人又はその遺族に対して互助会規約の定めるところにより所定の給付を行います。

また、会員が前記の災害により死亡した場合は、2万円を限度として花輪又は生花を遺族に贈ります。

(2)休業見舞金給付事業

会員が水難救助業務中に負傷し又は疾病にかかり、従前得ていた業務上の収入を得ることができない場合に、規約の定めるところにより、所定の見舞金を給付します。

(3)私物等損害見舞金給付事業

会員が水難救助業務中に、当該業務の遂行中に携帯していた私物を破損、焼失、紛失等した場合に、規約の定めるところにより所定の見舞金を給付します。

また、会員が水難救助業務中に、当該業務の遂行中に使用していた船舶の船体・属具を破損した場合に、規約の定めるところにより所定の見舞金を給付します。



(4)遺児等育英奨学金事業

災害給付を受けた会員の遺児(重度の後遺症を負った会員の子で、遺児と同等と認められる者を含む。)に対し、規約の定めるところにより、所定の奨学金を給付又は貸与します。

(5)災害見舞金給付事業

会員が自然災害又は火災等により、住居及び家財又はそれらのいずれかに被害を被った場合に、損害の程度に応じて災害見舞金を給付します。

(6)互助会誌発行事業

年1回発行のマリンレスキュージャーナルに互助会コーナーを設けて互助会の事業報告、決算報告等について会員への周知を図ります。



2 令和7年度収支予算書(令和7年10月1日から令和8年9月30日)

(単位:円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	差 異	備 考
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
(1)会費収入				
互助会会費収入	9,250,000	10,000,000	△750,000	18,500人
(2)雑収入				
受取利息収入	150,000	10,000	140,000	前年度実績額等
雑収入	1,000,000	1,000,000	0	
事業活動収入計	10,400,000	11,010,000	△610,000	
2 事業活動支出				
(1)事業費支出	2,064,000	2,200,000	△136,000	
会誌発行費支出	300,000	310,000	△10,000	前年度実績額等
保険料支出	1,764,000	1,890,000	△126,000	
互助会給付金支出	0	0	0	
災害給付事業	0	0	0	
休業見舞金給付事業	0	0	0	
私物等損害見舞金給付事業	0	0	0	
遺児等育英奨学金事業	0	0	0	
災害見舞金給付事業	0	0	0	
(2)管理費支出	3,083,000	3,287,000	△204,000	前年度実績額等
人件費支出	1,600,000	1,600,000	0	
会議費支出	14,000	18,000	△4,000	
旅費交通費支出	100,000	100,000	0	
通信運搬費支出	50,000	130,000	△80,000	
事務費支出	90,000	100,000	△10,000	
電算機事務費支出	180,000	180,000	0	
印刷製本費支出	60,000	160,000	△100,000	
光熱水料費支出	18,000	18,000	0	
賃借料支出	890,000	890,000	0	
諸謝金支出	11,000	11,000	0	
雑支出	70,000	80,000	△10,000	
事業活動支出計	5,147,000	5,487,000	△340,000	
事業活動収支差額	5,253,000	5,523,000	△270,000	
II 投資活動収支の部				
(1)投資活動収入				
互助会給付引当資産取崩収入	0	0	0	
(2)投資活動支出				
互助会給付引当資産取得支出	4,253,000	4,523,000	△270,000	
投資活動収支差額	△4,253,000	△4,523,000	270,000	
III 予備費支出	1,000,000	1,000,000	0	
当期収支差額	0	0	0	
前期繰越収支差額	0	0	0	
次期繰越収支差額	0	0	0	

救難所・支所のみなさんへ

500円/年で大きな安心

互助会に関する問い合わせ等は事務局(経理部)が承ります。

電話番号 03-3222-8066

FAX番号 03-3222-8067



(公社)日本水難救済会の通常理事会、定時社員総会等を開催

令和7年3月中旬から10月下旬までの間に、理事会や定時社員総会を開催し、令和7年度事業計画(案)と収支予算(案)や令和6年度の事業報告(案)及び収支決算(案)などが審議されました。

■ 令和6年度第3回通常理事会を開催

令和6年3月13日、海事センタービルにおいて、令和6年度第3回通常理事会を開催しました。

開会にあたり、議長である日本水難救済会の相原会長から挨拶があり、続いてご臨席の海上保安庁警備救難部長山戸義勝氏よりご挨拶をいただきました。

その後、下記5件の議案について審議が行われ、いずれも異議なく承認されました。

- 第1号議案 令和7年度事業計画(案)について
- 第2号議案 令和7年度収支予算(案)について
- 第3号議案 会費の減免の延長について
- 第4号議案 新規会員入会の承認について
- 第5号議案 定時社員総会の開催等について

議案審議に続いて、報告事項として「最近の日本水難救済会の業務実施状況について」および「救助船の用途廃止について」の2件について、江口常務理事より報告がなされました。



令和6年度第3回通常理事会の様子



相原会長挨拶

海上保安庁
山戸警備救難部長挨拶

■ 令和7年度第1回通常理事会を開催

令和7年5月15日、海事センタービルにおいて、令和7年度第1回通常理事会を開催しました。

開会にあたり、議長である日本水難救済会の相原会長より挨拶があり、続いてご臨席の海上保安庁警備救難部長・山戸義勝氏からご挨拶をいただきました。

その後、下記3件の議案について審議が行われ、いずれも異議なく承認されました。

- 第1号議案 令和6年度事業報告(案)について
- 第2号議案 令和6年度収支決算(案)について
- 第3号議案 役員の選任(案)について

議案審議に続いて、報告事項として「職務の執行状況の報告について」および「令和7年度名誉総裁表彰受章予定者について」の2件について、江口常務理事より報告がなされました。

また、議長より、次回の定時社員総会をもって退任予定の4名の理事に対し謝意が表され、出席していた服部理事から挨拶がありました。



令和7年度第1回通常理事会の様子



海上保安庁
山戸警備救難部長挨拶



相原会長挨拶

■ 公益社団法人日本水難救済会 第133回定時社員総会を開催

令和7年6月12日、海運ビル2階ホールにおいて、定時社員総会を開催しました。

定時社員総会は、日本水難救済会相原会長(議長)の挨拶ののち、議案審議となりました。

- 議案として
- 第1号議案 令和6年度事業報告(案)について
- 第2号議案 令和6年度収支決算(案)について
- 第3号議案 役員の選任について

の3議案が審議され、それぞれ異議なく承認されました。

- 議案審議の後、
- (1)令和7年度事業計画について
- (2)令和7年度収支予算書について
- (3)名誉総裁表彰式典の開催について

の報告がありました。

引き続き、瀬口良夫海上保安庁長官からご挨拶があり、その後閉会となりました。

なお、第3号議案の「役員の選任について」は、第133回定時社員総会終結時をもって理事21名のうち18名の理事が任期満了となり、12名が再任、6名が退任することとなりました。退任者の後任理事として、新たに6名が承認されました。また、監事の小川典子氏が本定時総会終結時をもって任期が満了するため引き続き監事として再任することで承認されました。



定時社員総会の様子



相原会長挨拶



瀬口海上保安庁長官挨拶

■ 令和7年度臨時理事会を開催

令和7年6月12日、第133回定時社員総会終了後、海運クラブ3階会議室において理事14名及び監事1名が出席し、臨時理事会が開催されました。

はじめに新任理事の紹介が行われ、出席した二木理事及び柴田理事からそれぞれ挨拶がありました。

続いて議案審議に入り、定時社員総会終結時をもって会長相原力氏及び理事長遠山純司氏の任期が満了となったことから、第1号議案「代表理事(会長)及び代表理事(理事長)の選任について」が審議されました。

審議の結果、引き続き、代表理事(会長)には相原力氏、代表理事(理事長)には遠山純司氏が選任されました。



臨時理事会の様子

■ 令和7年度第2回通常理事会を開催

令和7年10月15日、海事センタービル4階会議室において、令和7年度第2回通常理事会が開催されました。

会議の冒頭では、本年6月12日に開催された定時社員総会で新たに理事に就任された久保田八十夫理事および細川秀一理事の紹介が行われ、続いて日本水難救済会相原会長より挨拶がありました。さらに、来賓としてご臨席の海上保安庁警備救難部長 山戸義勝氏からご挨拶をいただきました。

- その後、議案審議に移り、
- 第1号議案「令和8年度日本財団及び日本海事センター等に申請する予算(案)について」
- 第2号議案「新規会員入会の承認について」
- 第3号議案「日本水難救済会救難所員等互助会役員の推選について」

の各議案が審議され、いずれも異議なく承認されました。

議案審議に引き続き、報告事項として「職務の執行状況の報告」「名誉総裁高円宮妃殿下及び承子女王殿下による石川県お成りについて」「国土交通大臣及び海上保安庁長官表彰受賞について」「救助船の用途廃止について」の4件について、江口常務理事より報告が行われました。



相原会長挨拶

海上保安庁
山戸警備救難部長挨拶



令和7年度第2回通常理事会の様子

令和7年における日本水難救済会 会長表彰受章者一覧 (敬称略)

(令和7年10月末日現在)

令和6年11月から令和7年10月末までにおける会長表彰受章者は次のとおりです。
受章された皆様の益々のご活躍を祈念いたします。

1 救助功労者海難の表彰

(1)救助功労表彰(2名)

- 徳島県水難救済会(1名)
(海部救難所日和佐支所)山戸孫一
- 愛知県水難救済会(1名)
(伊勢湾東部地区海難救助連絡協議会鬼崎遊漁船連絡協議会支所)吉川公貴

(2)団体救助功労表彰(10団体)

- 千葉県水難救済会(2団体)
富津救難所、富津PW救難所
- 公益社団法人琉球水難救済会(1団体)
恩納救難所
- 愛知県水難救済会(1団体)
三河湾東部地区救難所ラグナマリーナ支所
- 山口県水難救済会(1団体)
大浦救難所
- 新潟県水難救済会(1団体)
直江津救難所
- 特定非営利活動法人神奈川県水難救済会(1団体)
平塚救難所
- 琉球水難救済会(1団体)
- 和歌山県水難救済会 紀南西部救難所(救難所累積))(1団体)
- 千葉県水難救済会 長生郡広域救難所(年間出動全国1位)(1団体)

(3)救助出動回数功労表彰

(令和6年4月1日～令和6年12月31日)(20名)

- 山形県水難救済会(1名)
20回(袖浦救難所)田代善幸
- 千葉県水難救済会(6名)
50回(長生郡広域救難所)江田英男
60回(長生郡広域救難所)小栗正樹
70回(長生郡広域救難所)町屋紀明
90回(長生郡広域救難所)井上幹生、堀江忍
100回(長生郡広域救難所)井上幹生
- 特定非営利活動法人神奈川県水難救済会(1名)
50回(葉山救難所)鈴木健之
- 静岡地区水難救済会(1名)
20回(静岡広域DRS救難所)村田清臣
- 公益社団法人福岡県水難救済会(4名)
20回(神湊救難所)原一生
30回(神湊救難所)三苫豪冬
50回(地島救難所)奥佳寛
60回(地島救難所)前田浩昌
- 特定非営利活動法人長崎県水難救済会(6名)
20回(野母崎救難所)濱田貴史
30回(野母崎救難所)桑崎茂美
50回(野母崎救難所)森泰介
60回(野母崎救難所)濱田豊美
100回(野母崎救難所)濱崎勝哉



表彰状



救助功労章



団体救助功労盾



救助出動回数功労章
(50回)



救助出動回数功労章
(30回)



救助出動回数功労章
(20回)



救助出動回数章

190回(野母崎救難所)濱田泰明

○新潟県水難救済会(1名)

20回(岩船港救難所)長濱正高

(4)退職職員の永年従事功労表彰(24名)

- 公益社団法人北海道海難防止・水難救済センター(7名)
(豊浦救難所)奥本淳一、幣豊広、竹島正祐、加藤幸作
(三石救難所)土肥護
(歯舞救難所)澤田昌章、藤澤和久
- 公益社団法人福岡県水難救済会(2名)
(波津救難所)刀根和馬
(弘救難所)重川明広
- 新潟県水難救済会(15名)
(新潟西蒲救難所巻支所)遠藤正
(出雲崎救難所)坂下甚三郎、春木松五郎、高山清治、石川仁
(佐渡南部救難所)伊藤克幸、坂野栄二、金子幸雄、高津桂
(直江津救難所)兼玉文明
(新潟マリン救難所)山田善昭、椎谷郁雄
(新潟五十嵐救難所)古俣利政
(粟島救難所)鈴木靖、小萩仙一郎



銀杯



木杯



有功章

2 洋上救助功労者の表彰

(1)感謝状(2名)

- 個人:2名
(勤続10年)日本海西部地区洋上救急支援協議会 会長 西川順之輔
(勤続20年)中央洋上救急支援協議会 医療幹事 中川儀英

3 事業功労者の表彰

(1)事業功労(5件)

- 個人:3名
特定非営利活動法人 神奈川県水難救済会会長 牧島功
特定非営利活動法人 長崎県水難救済会副会長 福田一幹
大阪府水難救済会会長 高田威
- 団体:2団体
株式会社大丸
金刀比羅宮

(2)青い羽根募金(令和7年1月～令和7年12月末まで)

①団体:延べ39団体

藤沢海洋少年団、沖縄県、名護市、恩納村、沖縄市、那覇市、一般財団法人沖縄船員厚生協会、琉球海運株式会社、糸島市、福岡県、福岡県警察本部、若築建設株式会社九州支店、旭商船株式会社、鹿島建設株式会社、協栄海事土木、近代化学株式会社、京浜急行電鉄株式会社、五洋建設株式会社、新日本海フェリー株式会社、東亜建設工業株式会社、東京ガス株式会社、東洋建設株式会社、トーエイ株式会社、BEMAC株式会社、若築建設株式会社、公益財団法人海技資格協力センター、高知県造船工業協同組合海友会、陸上自衛隊旭川駐屯地、陸上自衛隊弘前駐屯地、陸上自衛隊松戸駐屯地、陸上自衛隊朝霞駐屯地、陸上自衛隊木更津駐屯地、陸上自衛隊高知駐屯地、海上自衛隊大湊地区総監部大湊在籍部隊、海上自衛隊呉地方総監部、航空自衛隊三沢基地、航空自衛隊入間基地、航空自衛隊浜松基地、航空自衛隊美保基地

②個人:延べ11名



事業功労／名誉有功章



事業功労／事業功労盾

編集後記

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昨年は、多くの皆さまにご支援・ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。
今号の作成にあたりまして、取材や記事のご提供、写真のご協力など、多方面からご尽力をいただき、編集委員一同、深く感謝申し上げます。
本誌では、全国各地で行われている水難救済活動や洋上救急の取組、
会員・救難所員の皆さまの熱意ある活動を少しでも多くの方にお伝えできるよう努めております。
今後も、読んでいただく皆さまにとって、より身近で親しみやすく、活動の輪が広がる誌面づくりを目指してまいります。
本年も引き続き、広報誌「マリンレスキュージャーナル」をどうぞよろしくお願い申し上げます。(編集委員一同)